

狛江市市民公益活動事業補助金

(スタート・チャレンジ補助金)

平成27年度選考会



平成27年5月24日

狛江市役所 市民生活部 地域活性課

平成27年度 狛江市市民公益活動事業補助金 応募団体(全7団体)

頁	分類	団体名	事業名	事業内容	申請額
1	2	スタート	「狛江でクラシック」企画委員会 狛江でクラシック Vol.4	現在、人口8万人に満たない狛江市内ではクラシック音楽の演奏会、特に都心に開催されるような第一線で活躍するプロの演奏家によるものが、エコルマホール主催公演などに限られている。市外の演奏会へ行くことが困難な市内の高齢者、学齢児童及びその家族にとっては、質の高いクラシック音楽の演奏に触れる機会が他地域に比べて少ないと考えられる。 そこで「狛江クラシック」は、年1、2回程度安価な料金で質の高い演奏を楽しむる演奏会を開催する。	50,000
2	10	スタート	行政書士による市民相談は狛江市役所でも月9回行われているが、居住エリアによっては市役所に足を運ぶのが不便な市民も存在すると思われる。 本年平成27年には相続税が改正され、相続の事前対策に頭を抱えている市民も多いと思われる。このような方々を支援していくべく昨年度より活動を開始しているが、本年度からはさらに拡大、認知と普及につとめたい。	行政書士による市民相談は狛江市役所でも月9回行われているが、居住エリアによっては市役所に足を運ぶのが不便な市民も存在すると思われる。 本年平成27年には相続税が改正され、相続の事前対策に頭を抱えている市民も多いと思われる。このような方々を支援していくべく昨年度より活動を開始しているが、本年度からはさらに拡大、認知と普及につとめたい。	50,000
3	24	チャレンジ 新規	狛江元気スクール ・厚労省指針「通所型サービスB」	今回、厚生労働省から出された指針「③通所型サービスB」(住民主体による支援)に対応する介護予防啓発を行う。 【特色】 ①厚生労働省の狛江市に対する新規課題に率先、即時対応できる。 ②最大の課題である会場は「こまえ正吉苑」の提供申し出を受け解決済、優秀な講師団と運営経験と実績の有るボランティアは確保。 【効果】 1)厚生労働省からの課題解決に協力 2)狛江市のデイサービス難民の早期救済	200,000
4	34	チャレンジ 新規	狛江の放射能を測る会 おおよび福島県の被災実態調査とその広報	狛江市内41カ所の空間放射能測定により、市民に実態を知らせることで安心・安全に寄与する。福島県被災地の支援組織との交流および現地での空間放射能測定すること、狛江市民に被災者・避難者の状況を伝え、理解を深めるとともに、原発事故を風化させることなく、電力の消費地として原発の問題を考える材料を提供する。補助金を受けることで市民に活動内容を広く知っていただき、市民から物理的・精神的・財政的支援を受ける弾みとして、自立した活動を目指す。	80,000
5	52	チャレンジ 継続	狛江・まちづくり市民会議 六郷さくら通りを軸とした快適なまちづくりプロジェクト (第2年度)	六郷さくら通り(旧・六郷用水路跡)の水・緑・歴史を生かした「快適なまちづくり」をめざす計画づくりの第2年度目の事業。 西河原自然公園・古民家園・児童遊園の一体的活用、歩道・旧水路敷を利用した遊歩道整備の構想案を、沿線住民・地元町会の市民とともに作成する。	200,000
6	59	チャレンジ 新規	狛江キッズイベント 和太鼓体験ワークショップ ドントドン テラコヤ3(さん)	未就学児童を対象とした、親子で和太鼓を実際に叩いてみる体験をするワークショップです。プロの演奏家と狛江の市民和太鼓団体によるミニライブも開催します。音楽の街狛江で、日本の伝統的な和太鼓を沢山の子ども達に体験して貰う事で、地元への郷土愛の芽生えに繋げて行きたいと考えています。その他、子育て世代の交流の機会となるような、モノづくりワークショップも盛り込みます。	200,000
7	64	チャレンジ 継続	ヘルマン・ウォルシュケさんの足跡調査研究とその発表 ヘルマンさんの会	第一次世界大戦時に俘虜として日本にきたドイツ人ヘルマン・ウォルシュケさんは初めて日本にドイツ風ハム・ソーセージの製法を伝え、第二次世界大戦後は狛江を拠点として全国に高級ハム・ソーセージを送り出した。 ヘルマンさんの波乱に富んだ生涯に関する情報を集め、狛江から発信する。本年はヘルマンさんの故郷ドイツのゼンフテンベルグ市との交流にも努める。	200,000

スタート補助金の部

「狛江でクラシック」企画委員会

様式第1号 (第8条関係)

市民公益活動事業補助金 (スタート補助金) 申請書

平成27年 5月 15日

狛江市長様

申請者 所在地 _____
団体名 「狛江でクラシック」企画委員会
代表者氏名 神代 稔子

平成27年度市民公益活動事業 (スタート補助金) の交付を次のとおり申請します。

記

- 1 事業名称 狛江でクラシック Vol.4
- 2 事業費総額 260,000 円
- 3 交付要望額 50,000 円

添付書類

- ① 団体概要書 (様式第2号)
- ② 事業計画書 (様式第3号)
- ③ 団体及び補助申請事業の収支予算書 (任意様式)
- ④ 団体の定款, 会則等 (任意様式)
- ⑤ 団体構成員名簿 (任意様式)
- ⑥ その他必要と認める書類



団体概要書

フリガナ	コマエデクラシックキカクイインカイ		
団体名	「狛江でクラシック」企画委員会		
フリガナ	カミヨ トシコ		
代表者名	神代 稔子		
所在地 (事務所等)	住所	(〒. :)	
	電話		e-mail
	FAX		HP
連絡担当者	フリガナ	カミヨ トシコ	電話
	氏名	神代 稔子	
	住所	(〒)	
	e-mail	_____	
設立年月日	平成26年 6月 1日		
設立目的	狛江市民に対するピアノを中心とするクラシック音楽の演奏会など音楽に関する活動を行うことにより、もって市民の生活の文化的環境を向上することを目的として設立した。		
主な活動内容 ・活動実績	<p>○主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1, 2回程度、第一線で活躍するプロの演奏家をゲストに招いて演奏会を開催している (参加者平均90人/回)。 <p>○前年度の活動実績 (平成26年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月26日に演奏会を開催 (参加者約100人) 		
主な活動地域	狛江市内	直近事業年度決算額 (支出総額)平成26年度	<u>273,000円</u>
会員数	<u> 6 </u> 人 (うち市内 <u> 6 </u> 人)	会費等	○無・有 (年額・月額) _____ 円

事業計画書(1-1)

1 事業名称	狛江でクラシック Vol.4
<p>2 事業の目的(事業を実施する前提となった問題点, 社会背景, 期待される効果等を交え, 具体的に記入してください。)</p> <p>現在人口8万人に満たない狛江市内ではクラシック音楽の演奏会、特に都心で開催されるような第一線で活躍するプロの演奏家によるものが、エコルマホール主催公演などに限られている。市外の演奏会へ行くことが困難な市内の高齢者、学齢児童及びその家族にとっては、質の高いクラシック音楽の演奏に触れる機会が他地域に比べて少ないと考えられる。</p> <p>そこで「狛江でクラシック」は、年1, 2回程度安価な料金で質の高い演奏を楽しめる演奏会を開催する。</p>	
3 事業の内容	
<p>① 実施場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狛江市内のホール(エプタザールなど) 	
<p>② 対象者</p> <p>狛江市民、特に市外の演奏会へ行くことが困難な市内の高齢者、学齢児童及びその家族</p>	
<p>③ 告知方法</p> <p>案内チラシの配布、ぶらあぼなど音楽専門誌への掲載、SNSの活用等により行う。</p>	
<p>④ 具体的内容/事業実施体制</p> <p>演奏会の具体的内容: 2~4名による演奏(前半40分程度、後半40分程度)。曲目は親しみやすい名曲を中心としつつ、質の高い演奏を提供する。</p> <p>事業実施体制: 会員の人的ネットワークを活用して第一線で活躍するプロの演奏家をゲストに招き、安価な料金による演奏会を開催する。準備は「狛江でクラシック」企画委員会の会員が行い、チラシ、プログラム作成等の準備業務や当日の受付等の業務については、会員に加え必要に応じてボランティアによる支援を得て実施する。</p>	

事業計画書(1-2)

4	<p>事業実施スケジュール</p> <p>5月：ホール予約</p> <p>6～8月：出演者、演奏内容等検討、決定</p> <p>9月上旬：案内チラシ配布、音楽専門誌への掲載、SNSの活用による広報</p> <p>11月下旬：演奏会開催</p>
5	<p>事業の自己PR</p> <p>(実施事業について、どういう点が優れているかなどを項目ごとにわかりやすく記入してください。)</p>
1	<p>先駆的であり、将来性のある事業であるかどうか。</p> <p>東京都心で開催される大半の商業ベースのクラシックの演奏会と異なり、そのような演奏会へ行くのが困難な狛江市民を主な対象とした先駆的な事業である。しかも、これまで市内で開催された演奏会の多くが演奏者側の都合で曲目を選択しているのと異なり、聴衆のニーズを踏まえ、偏りのない親しみやすい曲を厳選した事業である。今後子育て世代を中心に人口増加が見込まれる狛江市において、将来的にさらなる事業拡大も期待できる。</p>
2	<p>市民のニーズや地域性に適合した特徴のある事業であるかどうか。</p> <p>これまで3回にわたり演奏会を開催してきたが、好評を得ている。特に前回は高齢者の聴衆から「このような場所(演奏会場)にいられて幸せだった」「交通費がかからずに素晴らしい演奏が聴けてありがたい」という感想も寄せられた。通常はクラシックの演奏会へ行くことを遠慮する子供連れの家族の来場も多く、彼らからも事業継続への期待が寄せられている。</p>
3	<p>事業計画及び収支予算に現実性があり、自助努力の工夫がなされているかどうか。</p> <p>収入はほとんど出演者によるチケット販売のみであり、これだけで必要な経費を賄うことはできない。他方主な聴衆の層が高齢者、子育て世代であることを考えるとチケット代を高価にすることは難しい。市の助成を受けることによりチケット代をこれまでの3,000円を2,000円に下げることができ、今後持続的に演奏会を継続することが可能となる。</p>
4	<p>事業の実施により相当の効果が期待できるかどうか。</p> <p>高齢者にとってはクラシック音楽の演奏を生で聴くことにより、精神面の健康増進に寄与することが期待できる。子供たちにとっては、質の高い芸術に触れることにより、学習指導要領に掲げる「豊かな心の育成」に寄与することが期待できる。</p>
5	<p>事業を行う団体が、将来自立して活動できる可能性が期待できるかどうか。</p> <p>市の助成を受けながら事業を継続する中で、将来的には地元企業等のスポンサーを獲得し、より自立的に運営することが期待できる。</p>

補助申請をする事業の収支予算書

(狛江でクラシック Vol.4)

(単位：円)

収入の部

チケット収入	200,000	@2,000円×90人、@1,000円×20人
スタート補助金	50,000	
真声会関東支部助成	10,000	
計	260,000	

支出の部

ホール使用料	98,000	
ピアノ使用料	10,000	
練習室使用料	5,000	
MD使用料	5,000	
調律代	25,000	
出演者謝礼	90,000	
お手伝い謝礼	15,000	@3,000円×5人
雑費	12,000	
計	260,000	

「狛江でクラシック」企画委員会平成27年度収支予算書

(単位：円)

収入の部

事業収入	200,000	チケット収入
助成金	60,000	スタート補助金 50,000 円 真声会関東支部助成 10,000 円
計	260,000	

支出の部

事業費	260,000	狛江でクラシック Vol.4 実施経費
計	260,000	

春のコンサート

バリトン歌手 黒田 博氏を迎えて

曲 目

- シューベルト : 即興曲 D. 899 - 3, 4 (黒田智美)
 グリーク : 抒情小曲集より (丸山慶子)
 ブラームス : ピアノ小品集 作品 118 より (神代稔子)
 ロッシーニ : 歌劇「セヴィリアの理髪師」より
 わたしは街の何でも屋
 シューベルト : ます
 グリーク : 君を愛す 他



特別ゲスト 黒田 博 (バリトン)

京都市立芸術大学音楽学部卒業、東京芸術大学大学院オペラ科修了。イタリアで研鑽を積む。近年は新国立劇場「俊寛」題名役、「黒船」浪人吉田、「軍人たち」マリ大尉、「修禅寺物語」夜叉王、「鹿鳴館」影山悠敏伯爵、「夜叉ヶ池」学円、二期会「ニュルンベルクのマイスターズinger」ハンス・ザックス、「カルメン」エスカミリオ、「フィガロの結婚」アルマヴィーヴァ伯爵、「ドン・ジョヴァンニ」題名役、「エフゲニー・オネーギン」題名役、「パルジファル」アムフォルトス、日生劇場「ルル」シェーン博士および切り裂きジャック、びわ湖ホール「アイダ」アモナスロ、「タンホイザー」ヴォルフラム、「椿姫」ジェルモン、「死の都」フランク、兵庫県立芸術文化センター「メリー・ウイドウ」タニロ、「こうもり」アイゼンシュタインなどで出演。コンサートにおいてもバロックから現代作品まで幅広く活躍。国立音楽大学准教授。二期会会員。

黒田 智美 (ピアノ・伴奏)

京都市立芸術大学音楽学部卒業。第28回全日本学生音楽コンクール西日本大会ピアノ部門小学校の部第3位、第33回同コンクール高校の部第2位入賞。上柳明子、故下村和子、故アゴナシュ・ジョルジュの諸氏に師事。

丸山 慶子 (ピアノ)

京都市立芸術大学音楽学部卒業。田嶋靖子氏に師事。ワシントン D.C. にてマリリン・ガルスト、ニューヨークにてジョセフ・カリクシュタインの各氏に師事。京都、大阪、東京、高崎、ワシントン D.C. において、ソロ、アンサンブル活動を行う。女声合唱「みどりの風」ピアニスト。

神代 稔子 (ピアノ)

京都市立堀川高校音楽科を経て、京都市立芸術大学音楽学部卒業。吉田洵子、故吉田輝子、古川五巳、田嶋靖子の諸氏に師事。西ドイツ国立テトモルト音楽大学演奏家コース修了。ミュンヘンにてクラウス・シルデ氏、テトモルトにてエドムント・ラシエラス氏に師事。帰国後大阪、京都、東京、札幌、ワシントン D.C. などで演奏活動を行う。狛江市在住。「狛江でクラシック」を主宰。

「黒田博氏は、今我が国のオペラ公演に欠かせない歌手です。それゆえめったにリサイタルを開きません。彼の美声を間近でゆっくり聴ける貴重な機会です。」

(神沼遼太郎)

2015年 4月26日 (日)

13時30分開演 (13時開場)

エプタザール(小田急線狛江駅徒歩7分)

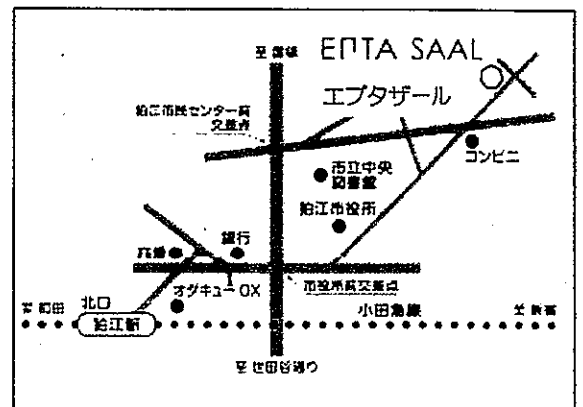
入場料 3000円 高校生以下1000円

主催 狛江でクラシック事務局

後援 京都市立芸術大学音楽学部真声会

京都市立芸術大学音楽学部真声会関東支部

お問い合わせ 狛江でクラシック事務局 03-3480-4865



狛江の相続を考える行政書士の会

様式第1号 (第8条関係)

市民公益活動事業補助金 (スタート補助金) 申請書

平成27年5月15日

狛江市長殿

申請者 所在地
団体名 狛江の相続を考える行政書士の会
代表者氏名 金澤 敬一

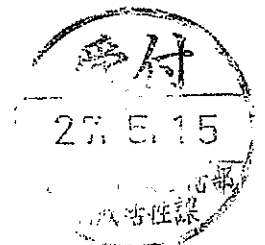
平成27年度市民公益活動事業 (スタート補助金) の交付を次のとおり申請します。

記

- | | |
|---------|------------------|
| 1 事業名称 | <u>相続・遺言等相談会</u> |
| 2 事業費総額 | <u>486,150 円</u> |
| 3 交付要望額 | <u>50,000 円</u> |

添付書類

- ① 団体概要書 (様式第2号)
- ② 事業計画書 (様式第3号)
- ③ 団体及び補助申請事業の収支予算書 (任意様式)
- ④ 団体の定款, 会則等 (任意様式)
- ⑤ 団体構成員名簿 (任意様式)
- ⑥ その他必要と認める書類



団体概要書

フリガナ	コマエノソウゾクラカンガエルギョウセイシヨシノカイ		
団体名	狛江の相続を考える行政書士の会		
フリガナ	カナザワ ケイイチ		
代表者名	金澤 敬一		
所在地 (事務所等)	住所	(〒)	
	電話		e-mail
	FAX		HP
	フリガナ	カンノ ユミコ	電話
連絡担当者	氏名	神野 由美子	(携帯)
	住所	(〒:)	
	e-mail		
	フリガナ		
設立年月日	平成26年4月1日		
設立目的	狛江市及び近隣に在住・在勤の人々に対して、相続手続等、日常生活の中の様々な法律問題について対応することを通じて、行政書士という職業の認知と普及につとめ、また問題解決等により生活が少しでも改善されるよう支援することを目的とする。		
主な活動内容 ・活動実績	<p>【前年度活動実績】昨年26年度4月に設立後、準備期間を経て、26年11月より相談会を実施。当初は月2回、和泉多摩川（カレーショップメイ）で夜（午後6～8時）開催。27年3月より昼（午後1～4時）開催を追加（狛江市商工会館）。参加者延9人。</p> <p>【今後の活動予定】今年度から、狛江市内の各地で、また様々な時間帯に、相談会を開催することを目標にしている。</p> <p>（5月には中央公民館と岩戸地域センターで開催。）</p>		
主な活動地域	狛江市内	直近事業年度決算額 (支出総額) 26年度	83,850円
会員数	6人 (うち市内6人)	会費等	無・有(年額・月額) 5,000円

事業計画書(1-1)

1 事業名称	相続・遺言等相談会
<p>2 事業の目的(事業を実施する前提となった問題点, 社会背景, 期待される効果等を交え, 具体的に記入してください。)</p> <p>○行政書士による市民相談は狛江市役所でも月3回行われているが、居住エリアによっては市役所に足を運ぶのが不便な市民も存在すると思われる。○本年平成27年には相続税が改正され、相続の事前対策に頭を抱えている市民も多いと思われる。</p> <p>このような方々を支援していくべく昨年度より活動を開始しているが、本年度からはさらに拡大、認知と普及につとめたい。</p>	
3 事業の内容	
<p>① 実施場所</p> <p>主に、市内各地の公民館・地域センター・地区センター等と、狛江市商工会館、カレーショップメイ。</p>	
<p>② 対象者</p> <p>狛江市及び近隣に在住・在勤の人々。</p>	
<p>③ 告知方法</p> <p>わっこ、新聞折込等。</p> <p>ホームページ作成、リーフレット作成等による認知拡大につとめたい。</p>	
<p>④ 具体的内容/事業実施体制</p> <p>○月3～4回、相談会を実施。毎回交代で、会員2～4名が対応。</p> <p>今年度については、公民館と地域センターを中心に市内各地にて、午前(10～12時)・午後(1～4時)・夜(6～8時)、あらゆる時間帯を網羅して開催。</p> <p>○団体ホームページ、リーフレット等を作成、さらなる認知拡大。</p> <p>○相談会のみでなく、適宜セミナーを開催。</p>	

事業計画書(1-2)

4 事業実施スケジュール

【今年度開催予定】(確定分) ※終了分を含む

- 4月 20日午後(商工会館) 21日夜(メイ) 28日夜(メイ)
 5月 17日午後(中央公民館) 19日夜(メイ) 22日午後(商工会館)
 27日午後(岩戸地域センター)
 6月 8日午後(中央公民館) 16日夜(メイ) 21日午後(中央公民館)
 23日(メイ)
 7月 8日午後(中央公民館) 23日午後(中央公民館)
 8月 23日午前(中央公民館) ※7月以降は調整中(月3~4回を予定)

5 事業の自己PR

(実施事業について、どういう点が優れているかなどを項目ごとにわかりやすく記入してください。)

1	<p>先駆的であり、将来性のある事業であるかどうか。</p> <p>現在開催しているのは相談会のみだが、活動が安定してきた後はセミナーも開催し、市民に相続等の事前対策を講じるきっかけとしてもらいたいと考えている。</p>
2	<p>市民のニーズや地域性に適合した特徴のある事業であるかどうか。</p> <p>相続等については、持ち家が多く、相続税が発生するかしらないか、ちょうど境目あたりで悩みを抱える市民が多いのではないかと考えている。</p>
3	<p>事業計画及び収支予算に現実性があり、自助努力の工夫がなされているかどうか。</p> <p>既に昨年度より相談会をおこなっており、具体的に試行錯誤中である。</p>
4	<p>事業の実施により相当の効果が期待できるかどうか。</p> <p>【終了した相談実績に鑑みて】(当たり前のことではあるが)相談者が、一人で考えあぐねて結局停滞させてしまう状態から抜け出して、少しでも前に駒を進めることができるよう支援しているつもりであるし、支援できているよう願っている。</p>
5	<p>事業を行う団体が、将来自立して活動できる可能性が期待できるかどうか。</p> <p>相続等を含む日常生活の中の様々な法律問題への支援は、行政書士として、未永く活動していきたい分野であると考えている。</p>

補助申請事業予算案

(平成27年6月1日～平成28年3月31日)

粕江の相続を考える行政書士の会

単位:円

項目	計画	備考
----	----	----

収入		
1) スタート補助金	50,000	
計	50,000	

支出		
1) ホームページ作成	30,000	HP研究等を含む
2) リーフレット作成	15,000	
3) 予備費	5,000	
計	50,000	

平成27年度予算案

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

粕江の相続を考える行政書士の会

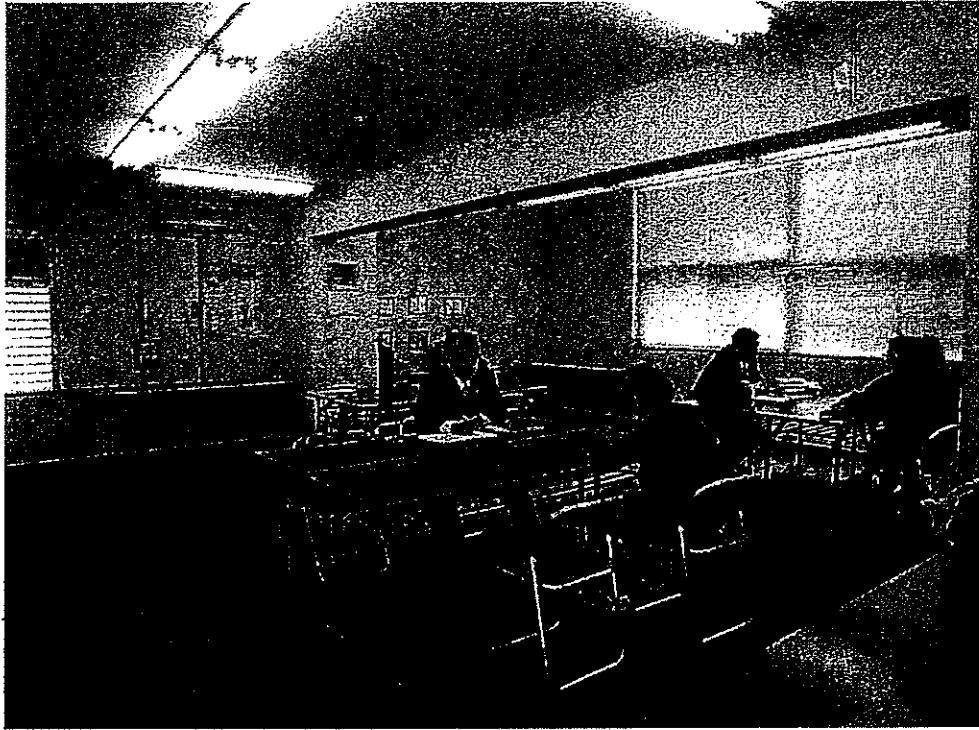
単位:円

項目	計画	備考
----	----	----

収入		
1) 前年度繰越金	66,150	
2) 会費	360,000	1ヶ月5,000×6人×12ヶ月
3) 寄付金	10,000	
計	436,150	

支出		
1) 会場費	96,000	メイ・商工会館等使用料
2) 印刷・消耗品費	120,000	チラシ作成等
3) 研修・事業費	20,000	研修会参加費・セミナー開催費等
4) 講師謝礼金	40,000	セミナー開催時講師謝礼
5) 通信費	10,000	HP運営費等含む
6) 広報費	84,000	新聞折込等
7) 予備費	66,150	
計	436,150	

◆相談会の模様（H27. 3. 23 狛江市商工会館にて）



◆今後の方針について打合せの模様（カレーショップメイにて）



狛江市及び近隣に在住・在勤の皆様へ 相続・遺言等 相談会のお知らせ

「頼りにしていた人が亡くなって、これからどうしていいのかわからない…」
「私が亡くなった後のことが心配…」など、なんでもお気軽にご相談ください。

相続・遺言等 相談会

相続・遺言・お墓の問題(墓じまい)・成年後見
離婚・尊厳死・公正証書・契約書・内容証明 など

* 身近な生活問題のご相談に応じます *

(1月)

1月20日(火)

1月27日(火)

(2月)

2月17日(火)

2月24日(火)

(3月以降の予定)

3月17日(火)

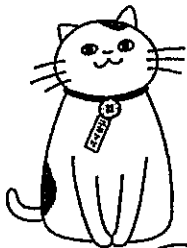
3月24日(火)

4月21日(火)

4月28日(火)

いずれも 午後 6 ~ 8 時

日本行政書士会連合会
公式キャラクター
ユキマサくん

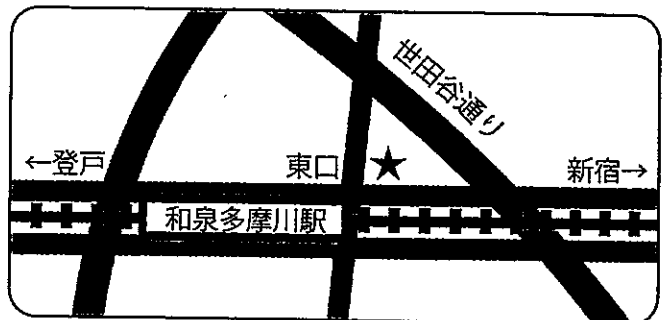


相談無料
予約不要

当日の状況によっては
少々お待ちいただく場合が
ございます。ご了承ください。

会場：カレーショップ・メイ

小田急線 和泉多摩川駅 東口からすぐ左側 中地下
(この時間カレーショップは営業していませんのでご注意ください。)



狛江の相続を考える行政書士の会

会員(東京都行政書士会/調布支部所属): 金澤敬一 菊田民治 古林孝一 神野由美子

◎全員、狛江市内の行政書士です!◎ 連絡先: 090-3932-1349 (古林)

毎月第3・4火曜、午後6~8時 にお待ちしております。

狛江市及び近隣に在住の皆様へ 相続・遺言等 相談会のお知らせ

「私が亡くなった後のことが心配…」

「頼りにしていた人が亡くなって、これから

どうしていいのかわからない…」

そんな皆様、どうぞお気軽にご相談ください。

相続・遺言等 相談会

成年後見・墓じまい（お墓の問題）・

* 身近な生活問題などの相談にも応じます *

11月18日（火）

11月25日（火）

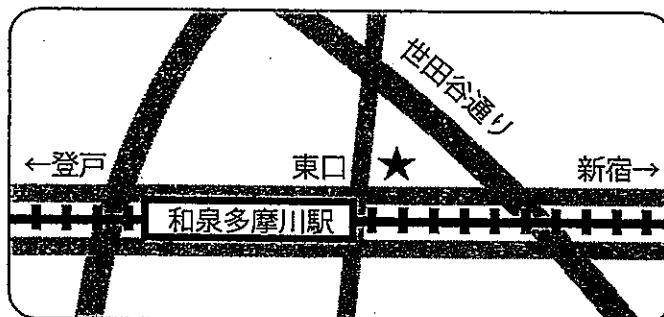
12月16日（火）

いずれも 午後6時～午後8時

相談無料
予約不要

会場：カレーショップ・メイ

小田急線 和泉多摩川駅 東口からすぐ左側 中地下
(この時間カレーショップは営業していませんのでご注意ください。)



※当日の状況によっては少々
お待ちいただく場合がございます。
ご了承ください。

狛江の相続を考える行政書士の会

連絡先：古林孝一（東京都行政書士会・調布支部）090-3932-1349

～今後毎月2回程度の開催を予定しております。詳しくはお問い合わせください。～

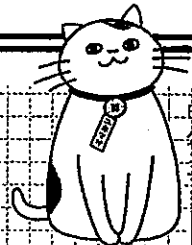
「頼りにしていた人が亡くなって、これからどうしていいのかわからない…」
 「私が亡くなった後のことが心配…」など、なんでもお気軽にご相談ください。

相続・遺言等 相談会

相続・遺言・お墓の問題(墓じまい)・成年後見
 離婚・尊厳死・公正証書・契約書・内容証明 など

* 身近な生活問題のご相談に応じます *

相談無料
 予約不要



日本行政書士会連
 公式キャラクター
 コキマサくん

お昼の相談も
 始めました!

	夜の部	昼の部
3月	17日(火) 24日(火)	23日(月)
4月	21日(火) 28日(火)	20日(月)
5月以降	5月12日(火) 19日(火) 6月16日(火) 23日(火)	5月 第4週(予定) 6月 第3週(予定)

詳細はお問合せください。

午後 6 ~ 8 時

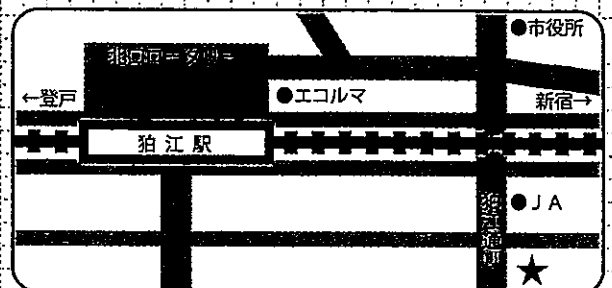
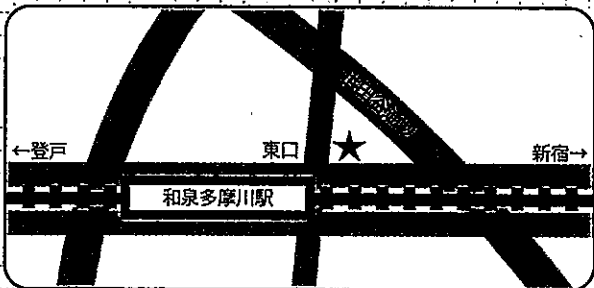
午後 1 ~ 4 時

会場：カレーショップ・メイ

会場：狛江市商工会館 2階

小田急線 和泉多摩川駅東口からすぐ左側中地下
(この時間カレーショップは営業していませんのでご注意ください)

小田急線 狛江駅 徒歩3分程度
(商工会館入口向かって左の階段を上かって2階へお越しください)



当日の状況によっては少々お待ちいただく場合がございます。ご了承ください。



狛江の相続を考える行政書士の会

会員(東京都行政書士会/調布支部所属)：金澤敬一 菊田民治 古林孝一 神野由美子

◎ 全員、狛江市内の行政書士です! ◎ 連絡先：090-3937-1349 (古林)

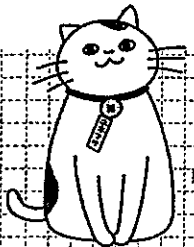
「頼りにしていた人が亡くなって、これからどうしていいのかわからない…」
 「私が亡くなった後のことが心配…」など、なんでもお気軽にご相談ください。

相続・遺言等 相談会

相続・遺言・お墓の問題(墓じまい)・成年後見
 離婚・尊厳死・公正証書・契約書・内容証明 など

* 身近な生活問題のご相談に応じます *

**相談無料
 予約不要**



日本行政書士会連合会公式キャラクター エキマサくん

市内各地で相談会をはじめます!

会場：狛江市商工会館 2階

小田急線 狛江駅 徒歩3分程度

(商工会館入口向かって左の階段を上って2階へお越しください。)

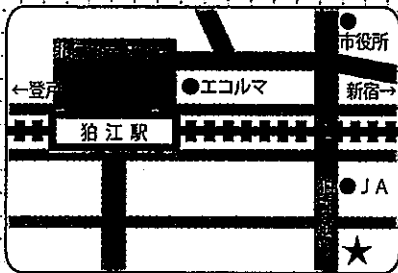
4月

20日(月)

5月

22日(金)

午後1～4時



会場：中央公民館(市民センター) 第四会議室

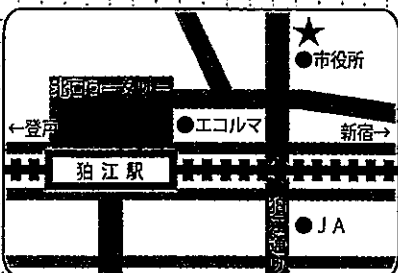
小田急線 狛江駅 徒歩5分

(狛江市役所隣)

5月

17日(日)

午後1～4時



会場：カレーショップ・メイ

小田急線 和泉多摩川駅 東口からすぐ左側 中地下

(この時間カレーショップは営業していませんのでご注意ください。)

4月

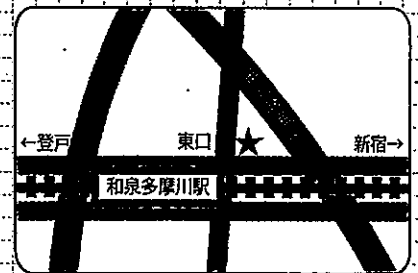
21日(火)

28日(火)

5月

19日(火)

午後6～8時



会場：岩戸地域センター 料理実習室

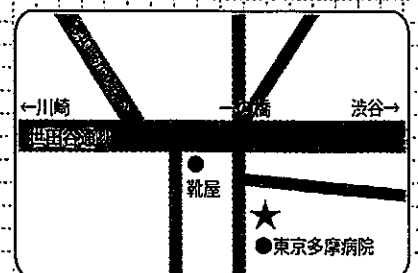
こまバス「岩戸地域センター」下車すぐ・小田急バス「一の橋」下車2分

(東京多摩病院隣)

5月

27日(水)

午後1～4時



当日の状況によっては少々お待ちいただく場合がございます。ご了承ください。



狛江の相続を考える行政書士の会

会員(東京都行政書士会/調布支部所属)：金澤敬一 菊田民治 伊藤正昭 古林孝一 神野由美子

◎全員、狛江市内の行政書士です! ◎ 連絡先：090-3932-1349 (古林)

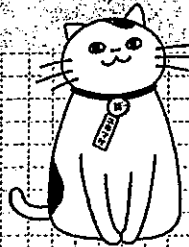
「頼りにしていた人が亡くなって、これからどうしていいのかわからない…」
 「私が亡くなった後のことが心配…」など、なんでもお気軽にご相談ください。

相続・遺言等 相談会

相続・遺言・お墓の問題(墓じまい)・成年後見
 離婚・尊厳死・公正証書・契約書・内容証明 など

* 身近な生活問題のご相談に応じます *

相談無料
 予約不要



日本行政書士会連合会公式キャラクター コキマサくん

市内各地で相談会をやっています

会場：狛江市商工会館 2階

小田急線 狛江駅 徒歩3分程度

(商工会館入口向かって左の階段を上って2階へお越しください)

会場：カレーショップ・メイ

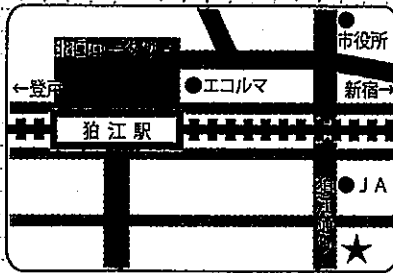
小田急線 和泉多摩川駅 東口からすぐ左側 中地下

(この時間カレーショップは営業していませんのでご注意ください)

5月

22日(金)

午後1～4時



5月

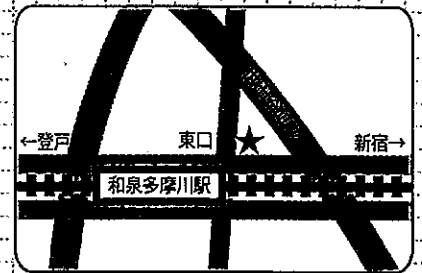
19日(火)

6月

16日(火)

23日(火)

午後6～8時



5月

17日(日)

* 第四会議室

会場：中央公民館(市民センター)

小田急線 狛江駅 徒歩5分

(狛江市役所隣)

会場：岩戸地域センター 料理実習室

こまバス「岩戸地域センター」下車すぐ・小田急バス「一の橋」下車2分

(東京多摩病院隣)

6月

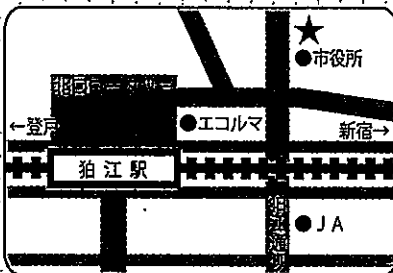
8日(月)

* ホール

21日(日)

* 第二会議室

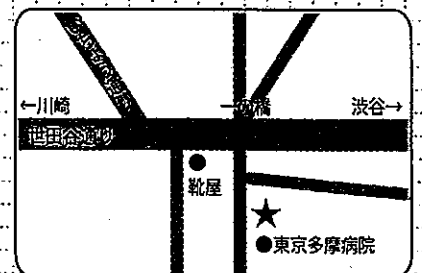
午後1～4時



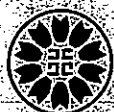
5月

27日(水)

午後1～4時



※当日の状況によっては少々お待ちいただく場合がございます。ご了承ください。



狛江の相続を考える行政書士の会

会員(東京都行政書士会/調布支部所属): 金澤敬一 菊田民治 伊藤正昭 吉林孝一 神野由美子

◎ 全員、狛江市内の行政書士です! ◎ 連絡先: 090-3932-1349 (吉林)

チャレンジ補助金の部

粕江元気スクール

平成 27 年 5 月 14 日

狛江市長 高橋 都彦 様


団体名 狛江元気スクール

代表者名 山口 正 忠

市民公益活動事業補助金（チャレンジ補助金）申請書（ 27 年度）

事業名称	厚労省指針「通所型サービスB」				
実施時期（予定）	平成27年6月4日～平成28年3月31日				
交付要望額	2	0	0	0	0 円
事業内容 （事業の特色や期待される効果等）	<p>今回、厚生労働省から出された指針「③通所型サービスB」（住民主体による支援）に対応する介護予防啓発を行う。</p> <p>【特色】①厚労省の狛江市に対する新規課題に率先・即時対応できる。</p> <p>②最大の課題である会場は「こまえ正吉苑」の提供申し出を受け解決済、優秀な講師団と運営経験と実績の有るボランティアは確保</p> <p>【効果】1) 厚労省からの課題解決に協力 2) 狛江市のデイサービス難民の早期救済</p>				

申込団体概要

団体名	狛江元気スクール				
代表者名	山口 正忠				
所在地 （事務所等）	住所	(〒)			
	電話	:	e-Mail		
	FAX		HP		
連絡担当者	氏名	山口 正忠	電話	(自宅) (携帯)	
	住所	(〒)			
	e-Mail				
会員数	5 人 (うち市内 5 人)	会費等	無・有 (年額・月額)	1,700	円
主な活動地域	狛江市内	直近事業年度決算額 (支出総額) 年度	ナシ 円		
主な活動実績	<p>新設につき無いが 母体団体「野川元気スクール」は平成23年5月設立、24年7月「狛江市共催名義使用承認」を得て以降更改して現在に至る。</p> <p>【26年度実績】開催50回 参加者延1,783名 見学者 58名 実行予算960千円 会員数53名</p>				<p>受付印</p> 

団 体 概 要 書

フリガナ	コマエゲンキスクール		
団 体 名	狛江元気スクール		
フリガナ	ヤマグチ マサタダ		
代表者名	山口 正忠		
所 在 地 (事務所等)	住所	(〒)	
	電話	e-mail	
	FAX	HP	
連絡担当者	フリガナ	ヤマグチ マサタダ	電話 (自宅) _____ (携帯) _____
	氏名	山口 正忠	
	住所	(〒)	
	e-mail		
設立年月日	平成 27 年 4 月 21 日		
設立目的	<p>① 平成27年介護制度変更に伴い、厚生労働省が地方自治体に示した指針に基づく「通所型サービスB」（住民主体による支援）を行う団体は狛江市に於いては極めて少ないとされるが、指針に示された2年以内に実施する為には、この団体の結成が緊急、且つ喫緊の課題となる。</p> <p>② 実施に当たり最大の課題である会場の確保に関して、こまえ正吉苑から、会場の将来を見据えた安定提供の申し出を受けた事により、狛江市と市民の社会福祉に貢献を目的に設立。</p>		
主な活動内容 ・活動実績	<p>【活動内容】厚生労働省の指針「通所型サービスB」を高いレベルで充足させる活動を43回（平年度52回）</p> <p>【活動実績】上記目的で新規設立のため当団体の実績は無いが、母体は下記</p> <p>「野川スクール」 【設立】 平成23年5月</p> <p>【狛江市共催名義使用承認】平成24年7月：「狛福介発第100518号」以後、毎年更改し現在に至る</p> <p>【平成26年度実績】開催50回 参加者 延1,783名 見学者58名 実行予算960千円 年度末会員数 54名</p>		
主な活動地域	狛江市内	直近事業年度決算額 (支出総額) 年度	ナシ _____ 円
会員数	_____ 5 人 (うち市内 5 人)	会費等	無・有(年額・月額) 1,700 円

事業計画書(1-1)

1 事業名称	厚生労働省指針【通所型サービスB】該当する介護予防普及啓発
2 事業の目的（事業を実施する前提となった問題点，社会背景，期待される効果等を交え，具体的に記入してください。）	<p>① 【前提・社会背景】今般、介護制度が変更され軽度のもので地方自治体に移管され、ボランティアで行う部分も新設が明示されたが、従来の行政依存の制度の中で受託業者はいても、之に該当する市民グループは、狛江には「こまえ正吉苑」の指導に依る1団体のみであった。 ◆問題点は、会場の確保を筆頭に、優秀な講師・ボランティアの運営管理者・開設資金・等、が困難であり、多くの方は「待機」しても行政の制度に依存するのみであった。</p> <p>② 【期待される効果】早期に実施出来れば、行政への協力・介護財政への寄与・「待機」市民への貢献・効果が期待される。</p>
3 事業の内容	厚生労働省指針「通所型サービスB」に適合するもの
① 実施場所	こまえ正吉苑
② 対象者	狛江市民
③ 告知方法	広報紙・パンフレット・チラシ・ポスターの掲示等
④ 具体的内容／事業実施体制	<p>◇毎週木曜日 午前 こまえ正吉苑 開催回数（予定）43回（平年度概ね52回）</p> <p>◇講師 内山 尚子 聖心女子大学（一般体育）研究室助手 ピラティス・インストラクター 療術師</p> <p>講師 奥野 浩史 NPO「心と身体の研究会」理事 気功認定講師 整体師</p>

事業計画書(1-2)

4 事業実施スケジュール

- ◇ 6月上旬 予約者を以て開講、同時に案内チラシ・パンフレット配布
 狛江市広報紙「わっこ」への取材要請
- ◇ 定例開催 28年3月までの間 (毎週木曜日) 43回
- ◇ 体力測定会 講演会 講座等は こまえ正吉苑と協議の上、実施回数・日時を定める
- ◇ 相互扶助 臨機応変に対応し随時行う。また必要が有る場合はこまえ正吉苑と協議して行う

5 事業の自己PR

(実施事業について、どういう点が優れているかなどを項目ごとにわかりやすく記入してください。)

1	<p>先駆的であり、将来性のある事業であるかどうか。</p> <p>【先駆】①平成24年度狛江市議会質疑議事録に「自主グループは望ましいが、まだ一つしか無い」とあり、当時は先駆的であったが</p> <p>②今回、市役所に本件、「通所型サービスB」の実施見通しを問い合わせた処、「未定だが、実施の際は協力して欲しい」と云われたので、現時点でも未だ先駆的かと思えます。</p> <p>【将来】①厚労省の指針は出たばかり、出た背景と待機者の数から推せば、質の高いグループは将来ともに必要と考えます。</p>
2	<p>市民のニーズや地域性に適合した特徴のある事業であるかどうか。</p> <p>【適合】厚生労働省の指針で一斉のスタートを求められているので、全国的にも適合。</p> <p>【特徴】会場を主とする諸条件の整備が無ければ、実施出来ない事業である事。</p>
3	<p>事業計画及び収支予算に現実性があり、自助努力の工夫がなされているかどうか。</p> <p>① 損益分岐点@1,700×20名は 野川元気スクールの前例に倣い1年以内に実現。</p> <p>② 制度変更でデイサービスを断念する「待機老人」は、今後も増加すると思うが、反面、新設なので周知に時間が掛れば、支援センター、老人会、サロン等をスライド持参で巡回PRする事も検討 ③野川元気スクールからの転籍も視野。</p>
4	<p>事業の実施により相当の効果が期待できるかどうか。</p> <p>① 介護認定者が、当グループに参加する事で「介護認定」を返上した場合の効果は公・私にわたり大きいと思われま</p> <p>② この制度は、厚労省の指針で全国一斉のスタートですが、会場問題等立ち上げに困難を伴うので、早期に実施「厚労省モデルNo.1になれば、全国から見学・照会等があり「狛江」の知名度アップにも効果が期待されるのでは(?)</p>
5	<p>事業を行う団体が、将来自立して活動できる可能性が期待できるかどうか。</p> <p>野川元気スクールの前例に倣い、経験を生かし、それを上回る努力をすれば、1年間で損益分岐点を超える結果は十分に期待出来ると考えます。</p>

平成27年度 収支予算書(団体と共通)

狛江元気スクール

<収入の部>

項目	金額(円)	内 訳
助成金	300,000	
会 費	210,800	@1,700円:6・7月6名・8月～11月8名・12月～3月20名
特別会費	185,980	都度
計	696,780	

<支出の部>

項目	金額(円)	内 訳
講師謝金	301,000	一般開催 43回
貸与Tシャツ	125,000	50着(4サイズ) 含講師・ボランティア
事務用消耗品	50,000	プリンターインク・用紙等.SD3,780-USB9,180-
備品費	165,780	プリンタ24,516-プロジェクター36,720-PC91,584-等
通信費	15,000	はがき・切手・電話代
総会費	5,000	定時・臨時総会等
広報費	15,000	パンフレット・会費・寄付金等
図書文具費	10,000	保健・体育 一般推薦図書(抄読会用)等
交通費	5,000	緊急送り届け等
展 示	5,000	催事(野川地域センター・こまえ正吉苑)
計	696,780	

②通所型サービス

(P23～) ※市町村はこの例を踏まえて、地域の実情に応じた、サービス内容を検討する。

- 通所型サービスは、現行の通所介護に相当するものと、それ以外の多様なサービスからなる。
- 多様なサービスについては、雇用労働者が行う緩和した基準によるサービスと、住民主体による支援、保健・医療の専門職により短期集中で行うサービスを想定。

基準	現行の通所介護相当	多様なサービス
サービス種別	① 通所介護	② 通所型サービスA (緩和した基準によるサービス) ③ 通所型サービスB (住民主体による支援) ④ 通所型サービスC (短期集中予防サービス)
サービス内容	通所介護と同様のサービス 生活機能の向上のための機能訓練	ミニデイサービス 運動・レクリエーション 等 体操、運動等の活動など、自主的な通いの場
対象者とサービス提供の考え方	○既にサービスを利用しており、サービスの利用の継続が必要なケース ○「多様なサービス」の利用が難しいケース ○集中的に生活機能の向上のトレーニングを行うことで改善・維持が見込まれるケース ※状態等を踏まえながら、多様なサービスの利用を促進していくことが重要。	生活機能を改善するための運動器の機能向上や栄養改善等のプログラム ADLやIADLの改善に向けた支援が必要なケース 等 ※3～6ヶ月の短期間で実施
実施方法	事業者指定	補助(助成)
基準	予防給付の基準を基本	事業者指定/委託 個人情報の保護等の最低限の基準
サービス提供者(例)	通所介護事業者の従事者	主に雇用労働者 +ボランティア ボランティア主体
		直接実施/委託 内容に応じた独自の基準 保健・医療の専門職 (市町村)

③その他の生活支援サービス (P24～)

- その他の生活支援サービスは、①栄養改善を目的とした配食や、②住民ボランティア等が行う見守り、③訪問型サービス、通所型サービス(訪問型サービス・通所型サービスの一時的提供等)からなる。

運動機能測定比較一覧表

野川元気スクール

No.	名前	種目	段階評価										測定値												
			26年度	前年度	26年度	前年度	26年度	前年度	26年度	前年度	26年度	前年度	26年度	前年度	26年度	前年度	26年度	前年度	26年度	前年度	26年度	前年度	26年度	前年度	26年度
1	O.K. (87歳)		4	4	3	2	2	2	4	21	◎	19.5	19.5	3.98	3.07	6.63	6.00	52.00	14.6	14.2	4.32	2.98	7.41	19.78	26.00
2			2	2	3	2	2	3	4	18		24.5	22.5	5.16	3.95	9.72	1.31	1.09	28.9	25.2	5.78	4.50	9.98	0.65	0.93
3	K.T.(♂) (86歳)		3	3	1	1	1	1	1	9	△2	17.5	21.5	4.40	2.98	7.90	71.0	20.0	13.5	20.4	3.67	3.03	7.43	47.7	70.0
4			3	5	2	1	1	5	23	◎	20.5	18.5	3.90	3.27	5.97	16.00	41.00	17.5	15.7	4.04	3.78	6.97	6.96	1.46	
5	A.T. (85歳)		2	4	4	2	1	4	5	22	◎	19.0	18	3.38	2.98	6.87	12.00	8.00	14.9	12.8	3.58	3.03	7.21	11.71	14.00
6			2	2	4	2	2	3	17	△1	33.5	30.5	3.09	2.56	5.49	120.00	23.07	38.2	33.2	3.06	2.60	6.32	54.84	60.00	
7	K.Y.(♂) (83歳)		5	4	5	4	3	5	5	31	△2	17.5	17.0	4.60	3.88	9.31	6.00	6.00	12.4	14.5	5.38	4.69	9.44	2.53	4.65
8			3	2	1	1	1	2	14	◎	21.0	17.0	4.40	3.09	6.21	3.00	3.00	19.4	18.1	4.22	3.48	6.62	6.31	3.50	
9	W.H. (81歳)		4	3	1	2	3	2	3	18	◎	20.0	20.0	3.58	2.90	5.87	5.97	6.00	16.7	17.3	3.31	3.00	3.06	13.90	7.43
10			4	4	2	1	2	2	2	21	◎	17.0	15.0	4.75	3.82	9.62	2.00	2.00	18.5	9.7	4.69	4.25	9.82	1.96	1.53
11	T.I. (80歳)		4	3	4	3	2	2	2	20	△1	19.5	18.0	3.55	2.78	6.44	2.00	3.00	16.4	15.2	3.66	3.10	7.51	10.84	9.40
12			3	3	4	2	2	3	20	◎	20.0	16.0	3.39	2.28	6.66	8.00	20.00	16.1	13.0	3.18	3.13	6.90	12.78	46.21	
13	U.M. (77歳)		4	3	4	4	2	2	3	22	◎	24.5	24.5	3.69	2.70	5.87	113.00	140.00	23.8	22.0	2.91	2.48	6.30	39.30	38.00
13			5	5	4	4	3	4	29	◎															

☆2年連続して測定を受けた方(全員・平均81.8歳)の記録です。「-2」までは許容範囲内と考えられるので、全員が改善、又は現状維持の好結果が記録されました。
～26.9～

平成 27 年度 開催予定表

月 \ 週	I	II	III	IV	V	開催回数
27 年 6 月	4	11	18	25		4
7 月	2	9	16	23	30	5
8 月	6	13	20	27		4
9 月	3	10	17	24		4
10 月	2	9	16	23	30	5
11 月	5	12	19	26		4
12 月	3	10	17	24		4
28 年 1 月	7	14	21	28		4
2 月	4	11	18	25		4
3 月	3	10	17	24	31	5
計						43 回

開催場所：こまえ正吉苑

(狛江元気スクール)

【住民主体の支援】を行うに当たり 私達の経験・個性を生かそう

受託民間企業と自主グループの持ち分比較

狛江元気スクール

	企業が運営	自主グループで運営
剰余金の使い道	企業の利益を出す	自分達に再投資し ◆楽しみ乍らの体力改善に (Tシャツ・お茶会など) ◆講師の増員、講座の増設など 質の向上 ◆場合によっては、会費の減額
仲間を楽しむ	◆仲間作りをする事は、 お金も、手間も、時間も 無い(契約外)	◆仲間との付き合いが自然に 生まれる
日常の情報交換	◆サラリーマンの感覚で は世話は出来ない ◆勤務時間の制約が有り 出来ない	◆地元の、行事・催事・生活 (買物・病院・稽古事)の情報 を時間に関係なく連絡・交換が 可能
会報・資料	◆費用と手間が掛り、情報 記事源も希薄	◆こまめに、自分達の立場で発 行出来る
講師	◆サラリーマン ◆会員は講師を選べない	◆自分達に相応しい人を委嘱 出来る。 ◆講師も、選ばれた責任を自覚 し、教案を当方と相談して作成、 愛情の籠った指導が実現する。
公費の支出	委託	原則としてナシ (厚生省指針：補助金・助成金)
大切な事	会員と講師はタテ系、会員同士はヨコ系、タテ・ヨコ併せて 織物は完成する。	
	◆弱いタテ系のみ ◆下校後のコミュニケーションは無理	◆タテ系とヨコ系が有って織物 は出来る。後は如何に美しく 織り上げるかデザインを含め 自分達が工夫・解決する課題。

【モットー】 介護した経験・介護され立ち直った経験・
経験の有る人が行う介護は行き届いた介護

狛江の放射能を測る会

2015年 5月 15日

狛江市長 高橋 都彦 様

団体名 狛江の放射能を測る
 代表者名 西尾 真人

市民公益活動事業補助金 (チャレンジ補助金) 申請書 (平成27年度)

事業名称	狛江市の放射能調査および福島県の被災実態調査とその広報				
実施時期 (予定)	狛江市空間線量調査：通年 広報：通年 福島現地調査：2016年3月下旬 広報：6月				
交付要望額		8	0	0	0 円
事業内容 (事業の特色や期待される効果等)	狛江市内41カ所の空間放射能測定により、市民に実態を知らせることで安心・安全に寄与する。福島県被災地の支援組織との交流および現地での空間放射能を測定することで、狛江市民に被災者・避難者の状況を伝え、理解を深めるとともに、原発事故を風化させることなく、電力の消費地として原発の問題を考える材料を提供する。補助金を受けることで市民に活動内容を広く知っていただき、市民から物理的・精神的・財政的支援を受ける弾みにして、自立した活動を目指す。				

申込団体概要

団体名	狛江の放射能を測る会				
代表者名	西尾 真人				
所在地 (事務所等)	住所	()			
	電話		e-Mail		
	FAX		HP	http://bit.ly/lfztlZh	
連絡担当者	氏名	西尾 真人		電話	(自宅) (携帯)
	住所	(〒)			
	e-Mail	mani			
会員数	6人 (うち市内 6人)		会費等	無・有 (年額) 6000円 (改正予定)	
主な活動地域	狛江市および福島県東部		直近事業年度決算額 (支出総額) H26年度	184,313円	
主な活動実績	2012年3月から狛江市内41カ所の空間線量測定とその広報。月1回の勉強会。福島県の被災者支援団体との交流および現地測定と狛江市民への広報。 成果を中央公民館「つどい」で展示。				

狛江の放射能を測る会 2015年度事業計画書

2015年度は以下の事業を実施する計画である。

引き続き、狛江市内の空間放射能を測定し、市民への安心安全に寄与する。福島への支援活動団体と交流し、また現地空間放射能調査を実施して、原発事故の現状を狛江市民に知らせる。また、原発に依存しない社会の可能性に関する学習を継続し、講演会・映画会、学習発表会を通して、狛江市民に原発について考える機会を提供する。

また、測る会の会員拡大と自立した運営を確立するために会則を改正し、維持会員制度を設けて、その拡大と運動の普及に努める。

1. 狛江市内の放射能測定とその結果の市民へのお知らせ
 - (1) 市内の41カ所を定点測定。2ヶ月に1回実施。
測定結果の市民へのお知らせ：公民館等公共施設。測定場所での配布他。
 - (2) 市民の希望に応じた場所での測定。必要に応じての測定（多摩川・野川の遊歩道）
2. 福島の被災者支援団体との交流と現地空間線量調査および狛江市民への報告
 - (1) 2015年4月1日～3日の福島現地調査の報告
 - ①6月中・下旬に中央公民館展示室にて展示
 - ②6月中旬にA4版にて印刷、公民館・地域センター等での配布および手渡しなどによる配布・普及。
 - ③小集会での報告会。
 - (2) 福島の現地調査の実施
 - ①2016年3月下旬、いわき市の支援団体との交流。
 - ②今年中に避難解除が準備されている檜葉町と葛尾村の線量調査
 - ③居住制限区域で除染が実施されている富岡町・飯館村などでの線量調査
3. 勉強会の実施と小集会での発表会
 - (1) 市民に開放した勉強会中心の例会を月1回実施する。（現在の例会は実務的な話合いと勉強会が混在しているため）
 - (2) 適宜、ビデオ鑑賞会、学習発表会などを比較的小規模な集会を開く。
 - (3) 必要に応じて、講演会・映画会を行なう。
4. 中央公民館「つどい」の展示発表
以上の活動成果を広く市民に知らせる。
5. 季刊での測る会ニュースの発行
会員拡大と財政基盤確立、活動の普及のために、季刊で測る会のニュースを発行する。主な内容としては、原発事故の収束状況と学習会の成果などを掲載予定。
6. その他

以上の内、市民公益活動補助金事業として、項目1、項目2の一部、項目4の活動に資金の補助を申請する。

補助申請する事業のH27年度収支予算書

2015年度収入予定	
会費年3000円×6人	18,000
維持会員 1000×20人	20,000
補助金	80,000
募金	32,000
合計	150,000

2015年度支出	
市内放射能測定 (印刷・紙代)	10,000
中央公民館つどい展示用(印刷・紙・インク)	15,000
中央公民館展示室展示	10,000
福島紀行パンフ作成(印刷・紙など)	15,000
福島現地調査代 内 車代、宿泊代 (4人)	100,000
合計	150,000

狛江の放射能を測る会 H27年度収支予算書

2015年度収入予定	
会費3000円×6人+1000円×20人	38,000
補助金	80,000
募金他	102,000
合計	220,000

2015年度支出	
市内放射能測定 (印刷・紙代)	10,000
季刊の会員向けニュース	10,000
打合せ(資料・室代)	20,000
中央公民館展示室用	10,000
中央公民館つどい展示用(印刷・紙・インク)	15,000
福島紀行パンフ作成(印刷・紙など)	15,000
福島現地調査代	140,000
合計	220,000

三年が過ぎた福島へ

2014年3月31日～4月2日

狛江の放射能を測る会 二階堂 まり

春休みを利用しての福島への旅も三回目。去年はほとんど線量が下がっておらず、むしろ上がっているところもあってショックだったが、三年たった今年はセシウム134の半減期が2.1年だし何もしなくても減ってはいるだろうという期待感があった。結果として、下がっているところは多かったがそうは言っても、低いところでも狛江市 ($0.06 \mu\text{Sv/h}$: マイクロシーベルト/時) とはひと桁違い、原発の被災地にきているのだなあということを実感せざるを得なかった。除染が済んでいるところでも、道路上は低い舗装された車道から一歩だけ脇に寄った草や土の上(断らない限り地上1mで測定)はドンと線量が上がる。しかし、地元でマスクをしている人はほとんど目にしなかった。

< 美しい夜(よ)の森・富岡、そして檜葉 >

一日目、富岡のインターで、毎年お世話になる檜葉町宝鏡寺住職の早川さんに会い、富岡町を中心に案内していただく。彼は「ふるさとをかえせ・福島原発避難者訴訟」の代表をしている。また、3月9日の「原発ゼロ☆大統一行動」では日比谷野外音楽堂でお話をなさっている。インターを出てまもなく、田畑には放射性ゴミを入れるあの黒いフレコンバッグが並んでいる。汚染土だけでなく、セイタカアワダチソウを刈って入れてあるのだそう。ちょっと先に福島第二原発の排気筒が見える。町役場の広報車が「立ち入りは3時までです。バリケード(検問所)も閉まります」とアナウンスをしている。常磐線の夜(よ)の森駅を下に見下ろすところに立つと、桜の木がず〜っと並んでいる。蕾はまだ固いが、とてもしっかりした木だ。何世代にも渡って大切に育ててきた桜の木……。町の人たちの歓びであり誇りだった夜の森の2.5キロに及ぶ500本のソメイヨシノの桜並木は、去年より少しだけ先まで行けるようになっているが一番美しいところは帰還困難区域でまだまだ先の方だ。道路は除染されているが、駅を見下ろす柵のところは掻き出した枯れ草と土がこんもりと積んであり、モグラの出口のような感じだ。そこは $8.8 \mu\text{Sv/h}$ ある！去年初めて来たときに心を締めつけられた可愛いケーキ屋さん



富岡ICを降りて、夜の森に向かう途中。富岡町でも除染が始まっている。富岡IC出口で $3.43 \mu\text{Sv/h}$ 、道路で $2.6 \mu\text{Sv/h}$ (以下、 Sv/h を略す)



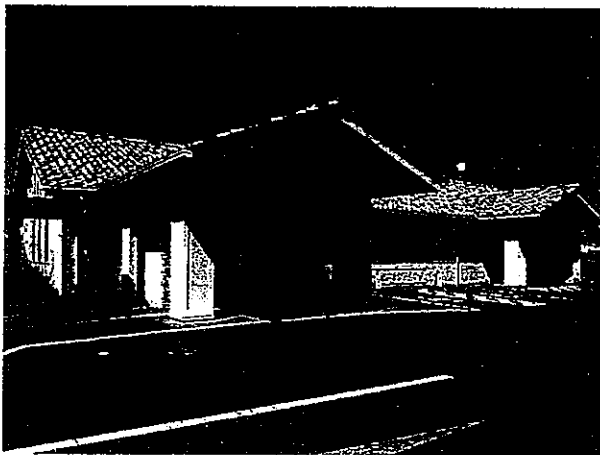
夜の森の桜並木。自宅に帰ってきている人と出会った。横田菓子店前から撮影。路上で 3.0μ 、脇で 4.7μ 、雨どい下で振り切れた (10μ 以上)。

「お菓子のよこた」のところに行く。ガラスに貼られた「ホワイトデー」の貼り紙は少し色褪せてそのままだ・・・中を覗くと可愛らしい箱や包装されたお菓子が変わらずそこにある。時間が止まっている。前回同様、裏のトイレのところは線量計が振り切れる（10 μ Sv/h 以上）。道路をへだててピンクのきれいな色のクリニック・調剤薬局・・・看板も新しげに優しい感じで明るい日差しの中にある。開院まもなくだったのだろうか・・・

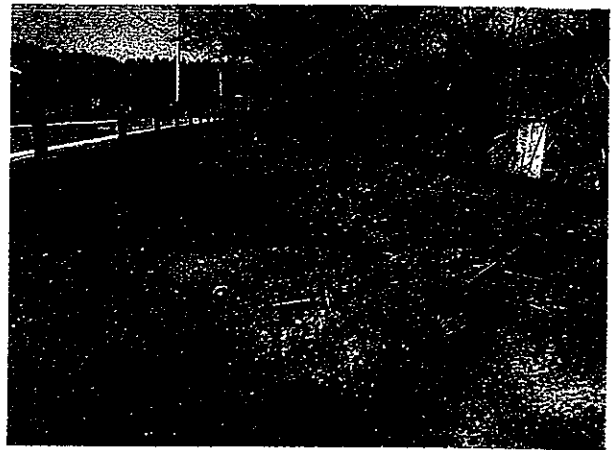
バリケードの向こう側のアパートの屋根のそこそこにビニールが被せてありその上に白い砂袋のようなものが乗せてある。地震で壊れたところから雨漏りしないようにとやっけてあるのだそうだ。しかし、もう時がたち、役目を果たしていないということだ。この雨漏り対策はこのあとあちこちで目にするようになる。白い木蓮、黄水仙、ピンクの花々・・・動けない花たちは春の訪れで確実に美しく咲いている。新しい家が多く、さぞ無念だろうと思う。夜の森にある富岡第二小学校のモニタリングポストのところはしっかり除染されているので低くなっているが、ものの20mくらい離れた所とは2 μ Sv/hも違った。しかもモニタリングポストに出ている数字と我々の3台の測定器とではかなり数値が違う。これはどのモニタリングポストも同じだったし、去年もそうだった。「たらちね（いわき放射能市民測定室）」（7頁参照）で聞くと、「大体半分くらいになってますよ」とのこと。

以前に請負業者がフランスの放送局からのインタビューに答えて「国から圧力があるので操作するのはです。高く出ると国からクレームが出るのです。」と喋っていたとのことだ。低く出るのに取り変えたがまだ撤去が終わってないところは二台並んでいるそうだ。確かにそういうところもありました！ 富岡第一小学校の体育館は中の紅白幕が透けて見えている。卒業式だったのだろうか。広い広い運動場・・・

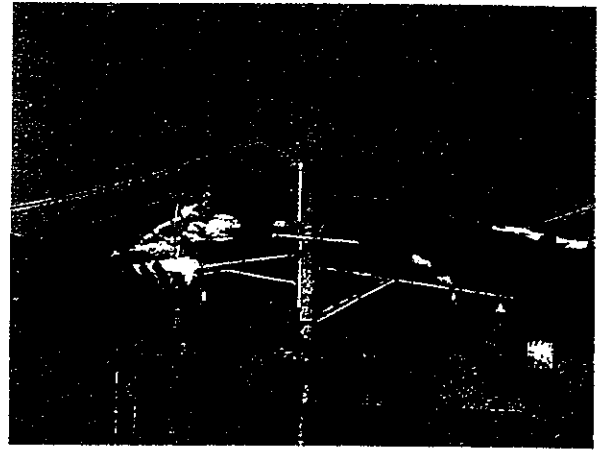
ここで思いっきり走りまわっていた子どもたちが仮設でどうしているのだろうか。また広報車が通る。「防災富岡広報で



夜の森の桜並木から一本離れた通り沿いにある脳外科医院「さくらクリニック」。薬局も傍にある。桜色の壁の真新しさが悲しみを誘う。



右側の崖下がいまは走っていない常磐線の夜の森駅。桜並木から掻きだされた土や落ち葉をフレコンバックに詰め込む。8.8 μ ある。



夜の森のバリケードの先(帰還困難区域)にあった家の屋根。雨漏り用の補修が痛々しい。手前の信号は赤のまま。バリケード前は2.10 μ



富岡2小のモニタリングポスト(以後MPと略)の前で測定 2.57 μ 、MP1.60 μ 、校門前で測定すると4.34 μ 。

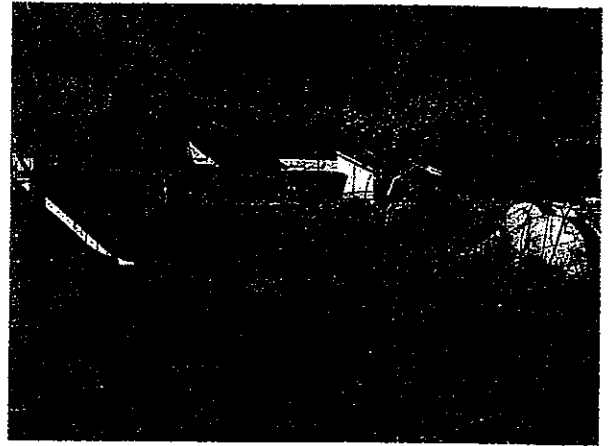
す。被曝制限のために着用した防護装備については、放射性物質拡散を防止するため、必ず帰りのスクリーニング場で処分するようお願いいたします

す」・・・最後に富岡駅へ。去年より更に廃墟感がある。今回はお天気がよいので打ち付ける白波がなおさら悲しい。あの美しい海は変わらない・・・海には罪はない・・・

檜葉町に入る。去年も思ったが、本当に美しい町！山・里・川・・・見るのが辛いほど美しい。日本人の心のふるさとだろう。そしてそこには一面のフレコンバッグが。早川住職は自分の田畑を放射性廃棄物の入ったフレコンバッグの仮置き場として三年間の約束（無理だが・・・）で提供しているが、去年はある部分にズラ〜と並んでいるという感じだった。今年は・・・それが何段重ねにもなって田畑を何面も埋め尽くし、その上に緑色のシートをブワ〜と被せてある。横ではクレーンがさらなる黒バッグを重ねている。檜葉町はこの春に帰還のことを決めるそうだが、この風景の中に帰還するのだろうか・・・。高台の宝鏡寺は相変わらず美しく春に調和している。次々に色とりどりの花が咲くように先祖代々種々の木を植えて育てて来ていたようだ。立派な桜の木は、手入れができないため「テングス病」にかかっているとのこと。先の方の枝がくっついてきてしまっているのだ。そこをきちんと切ってやらねばならないのに・・・。800年近い歴史のあるお寺の30代目の住職は孫が継ぐ予定だった寺を自分の代で一度閉めざるを得ない。

< 浜通り医療生協・・・(1) 原発集団訴訟 >

理事長の伊東達也氏に一年ぶりにお会いして三年たった福島現状と裁判の状況を伺った。伊東さんは「元の生活を返せ・原発事故被害いわき訴訟」の団長をしている。檜葉の早川さんが団長をする訴訟と共に福島地裁いわき支部が扱っている訴訟だ。二つの違いは以下の通りだ。早川さんの「ふるさと・・・」は「強制避難を余儀なくされた人々は生活手段を奪われ、人生設計を根本から狂わせられており、その裁判は生活再建という今後の人生を掛けた裁判」であり、伊東さんの「元の生活・・・」は「被害者の健康に対する不安の声などを全く聴かず、僅かばかりの一時金額を通知して終わりにしようとしている東電と政府に対し、賠償金だけでなく、特に子どもたちの将来のために基金制度（東電・原発メーカー・原発ゼネコン・債権を持つ銀行などが拠出）の創設など種々の政策（後述）を求める政策形成訴訟」である。一緒にやりたいが、「ふるさと・・・」の方は避難者たちが「今」困っているため、長引く国への訴えはやめて東電だけを訴えることにした。弁護団は共通だそう。被害の内容が「生活破壊」「ふるさと喪失」であり、金に換算するのはとても難しい。800年続いた寺を失う早川住職の痛みなどをど



富岡保育所。昨年と比べて、富岡町の荒廃を感じたが、早川さんは除染が始まり、ゼオライトが撒かれると檜葉のように一変するよと言う。



檜葉町。早川さんの田んぼを含め、一面フレコンバッグが山積みの仮置き場。0.39 μ



今年も富岡町の案内をお願いした早川篤雄住職(真中)。宝鏡寺本堂前で。0.44 μ

う評価するのだろうか。「元の生活・・・」の方は低線量被曝が大きな問題となるが、一次・二次提訴を合わせて1395人が原告となっている。この中には222人の子どもが含まれている！！その内15人は原発事故の時にはまだお腹の中にいて3.11以降に生まれた子どもたちだ！！こんな裁判があってもいいのだろうか・・・まさに「放射能特有」の問題だ・・・。集団訴訟は13の地裁で行われているが、東電は「津波・地震は想定外であり、東電には不法行為や故意責任はない」「しかし賠償は法律で無過失でも支払うようになっているので、中間指針に従って払う。無過失で賠償するんだから不法行為責任の審理は不要」『年間20ミリ被曝する』方が、『喫煙・肥満・野菜不足などの発がん要因によるもの』よりも発がんリスクは小さい」と答弁している！！！！信じられますか?!?!? 「不法行為」とは、「故意または過失によって他人の人権を侵害し、損害を与えること」だが、それが無いと?!?!? この答弁に対し国は認否せず高みの見物だそうだ。結局はその東電の言い分を認めるのだろうと伊東さんは言っていた。低線量被曝の不安・問題点についてどう訴え、理解してもらうかだが、裁判長は「国が～～と言っているから」「素人が何を言う？」になりがちだという。驚いたことに、裁判官に現地を見に行きたいといくら要請しても、あれこれ巧い言葉を使って断り、行くつもりはないのだという。伊東さんも早川さんもず～～と以前から原発の危険性を訴えてきた。2005年には、検証の結果1960年のチリ津波と同じ津波が起こったら福島原発はポンプが水没し大変な事故になることを突き止め、二度にわたって東電に警告し、東電もそれを認めたがそんなものは来ないことにしてしまったそうだ。

「元の生活・・・」訴訟の論点は4つで

① 放射線による低線量被ばくの健康診断、検査、医療の継続的な補償

去年12月31日までに一次検査を受けた約25万4千人の内、癌と確定が33人、疑いが41人だが、県民健康管理調査検討委員会は「原発との因果関係があるとは考えにくい」と話した。この委員会は正式な検討会開催の直前に秘密の会合を持ったことが発覚して信頼を失った。現在は委員会のもとに「甲状腺評価部会」がつけられ8月に見解を発表するが、発表がどうであっても、「原因は何だ?!」と論争して県民対立をあおらないように、違いは認め合って団結して国と東電に向かわねばならないとお話だった。分断・分裂してしまえば相手の思う壺だ。福島の色々な問題でそれを強く感じる。

② いわれなき偏見による差別を広げないための学校・社会教育

③ 原発労働者の労働条件の改善

多重下請け構造のためピンハネ率90%近いところもあるという。労働者は「被害があっても訴えない」「報道機関からの取材は受けない」の念書を書かされ、破ると雇用会社そのものが切られたりする。被曝した労働者も多く、熟練労働者が激減。事故「収束宣言」後に働き始めた作業員には検診と精密検査の補助はなくなっているようだ。

④ 県内10基の廃炉は福島県再建の大前提

< (2) 3年後の現状 >

1) 誰も住んでいない避難区域の面積は 1150平方キロで香川県・大阪府の6割、東京の半分の広さ。



浜通り医療生協で、伊東達也理事長(右から2人目)から3年経った福島の現状を聞いた。

- 2) 避難者は 163,000 人から 135,000 人に減ったが、家族そろって住める家もなく所帯数は 3 割も増えている！！つまりバラバラに暮らしているわけだ。浪江町ではだんだん増えて今では 6~7 割がバラバラに暮らしていると回答しているそうだ。
- 3) 去年 12 月に震災関連死と呼ばれる死亡者が直接死 (1603 名) を超えたが、今日 (2014.3.31) 現在 1691 名と言われている。しかし、認定に差がありしっかり医師が助けて申請させているところは認定率が高いが、家族だけではやり方が分からなかったりするため認定率が 80%~30% とばらついているとのこと。しっかりした基準がないのだ。実際はもっと多いだろうという。
- 4) 子どもは学校を奪われ、先生・友人・そして家族からも引き離されたままだ。浪江町で 1700 人の小中学生にアンケートした結果、県外の 690 校に分散している。2012 年 1 月の調査では「元の家族が揃っていない」が 51% だった。もっと増えているだろう。他の町では把握されていないが同じようなものだろうという。県立八つの高校はすべてが他の市町に避難してサテライト方式で仮校舎での授業を続けているが、このほど中高一貫校を広野町に作る計画が決まって、それと引き換えに 5 校が 2017 年から休校になるそうだ。いつ復活できるのか誰にも分からない。「廃校」ではなく「休校」にしているのは政治的思惑があるようだ。第一原発から 22 キロの私立高校 (原町) は生徒減少と東電が移設費用の賠償を認めないため 2013 年度で廃校。私立大 8 校は大幅な入学者減だが東電は求めに対して無回答！政府は倒産されるとまずいため国の予算で支援する。あくまでも「損害賠償」にはさせないのだ。
- 5) 県内大部分は人工放射能にさらされて多くの県民が苦しみと不安ストレスの中で生活。加えて地域社会が「原発からの距離」「放射線量」「賠償」で分断され、「津波被害 vs 原発被害」の違いなど県民の中に対立が持ち込まれ、うっ憤が同じ被害者に向けられてしまう悲しみがある。これは去年も耳にしたが、年を経てもますます複雑になってしまっているようだ。

< オーガニックコットン >

NPO ザ・ピープルの代表で復興支援ボランティアセンターの長でもある吉田恵美子さんからの電話の声は物凄く明るく元気でエネルギーに溢れていてこちらも元気になった。小名浜地区のボランティアセンターに行く途中で道を確認しようと連絡したときのことだ。プレハブの事務室に所狭しと並ぶコットンベイク人形や各地から戻って来たコットン、コットンを組み直してブーケの芯にするワイヤーのついたコットン……。平成 24 年の初年度は技術がなくて、綿繰 (紡績工場へ送る状態にする) 後のものはかなり少なかったが、25 年度は 280 キロもできたそうだ。口に入れない農作物として放射能の移行率の低いコットンを有機で作ろうと始めた事業だ。仮設の脇でも土いじりできる良さもあり、やっているという話を去年は聞いたが、今では小学校 8、中学 2、高校 1 でも教育の一環として参加しているそうだ。子どもたちが育て、日誌をつけ、人形を作り、環境や産業についても考える。広野、二本松、南相馬・・・そして県外にも広がって来た。首都圏などから多くのボランティアが参加している。双葉にも広げていきたいと。それは帰還した人たちにやってほしいということだけではなく、ボランティアの人たちにそちらにも行ってほしい、そして見て、本当の情報



小名浜復興ボランティアセンターで。NPO ザ・ピープルの吉田恵美子理事長にますます複雑化する避難者・被災者のコミュニティ活動を伺う。写真はコットンプロジェクトのポスターを掲げる二階堂。

を得て、理解してほしいからだ。そうやって風化を防ぎたいと。土や綿のベクレルチェックは「たらちね」できちんとしているが、やはり色々な意見はある。ボランティアで広野に来た人が空間線量を測り「0.24 あった（政府の除染基準は 0.23）が、その辺をわかってボランティアを入れているのか?!」と言ってきたこともあるそうだ。作る側は安全と思っていても買う側の立場、感じ方、考え方もある。そこをきちんと考えて進めていきたいと。現在は、布、糸、Tシャツ、手ぬぐいを販売している。それにブーケの芯にするワイヤー付き丸いコットンも箱に一杯置いてあった。

< いわきに住む人々 >

ザ・ピープルの事務所のある小名浜のタウンモールには「小名浜交流サロン」があるが他にも3つの常設の交流サロンがあり、常磐では温泉旅館のロビーを借りて月2回交流サロンをやるそうだ。同じ地区から避難してきている方たちが気兼ねなくお喋りしたり趣味を楽しんだり、健康や就職の相談をしたりする。去年、いわき市民と避難者との軋轢の話を伺い「避難者帰れ」の落書きのことなど心を痛めたが、その対立が「有名」になってからは表沙汰はなくなったが内側へ内側へと入ってきている状況もあると。もうここで暮らそうと腹を決めた人と、とりあえず賠償が続く限りここにしようという人など、考えや決断の違いがさらにはっきりしてきて、ここでも避難者の中の分裂・分断が進んでいる。受け入れる側にも様々な分断がある。飲食店は「超」繁盛で働き手の方が足りないそうだ。だが住むところが定まらない、すべてが定まらない人が多く、自給 1000 円と言っても集まらないそうだ。富岡町の人たちがかなりまとまって郡山に住んで「お互いさま工房」というのを作っていたが、始め 30 人いたのが今は 5 名になった。多くの人がいわきへ来てしまったのだ。線量が低いということと東電に通えるということ。このように3年たってもまだまだ定まらないことばかりだ。いわき市は津波被災者の市民のためにやっと「いわき市津波災害公営住宅入居開始」を始めた。競争率は5倍で、なかなか希望のところとうまく入れなかつたり、すんなりいっていないという。もうひとつ、県立の避難者公営住宅も計画されているが、各町が入り乱れる上、いわき市の公営住宅と近いので、コミュニティがうまく機能するのか、地域住民とのつながりがうまくいくのかが心配。その辺を、ボランティアセンターにうまくやってほしいと委託されているのだそうだ。行政は作るころまでやってあとはよろしくと・・・。大変な仕事だが、行政はそういうことが苦手だからなんとか知恵を出してうまくやってほしい。応援したい。前に進んでいくためには次から次へと新しい問題が出てくるのだなあと改めて思った。

ザ・ピープルはこうした支援活動が評価され、市民功労賞を受賞した。

< 水俣に学ぶ >

2012年夏にいわき市の中高生が水俣研修に行った話を聞き頼もしく思ったが、引き続き2013年も夏に16名の生徒たちが6日間行ったそうで、立派な報告書ができていた。一年目は中心になった澤井校長の中学校とその卒業生だったが、今回は8校に広がり中学4、高校4。そのあとでフィリピンを大型台風が襲って大きな被害が出た時に、研修参加者たちは、立ち上がり街頭に立って募金を募り、救援用にと学校を通して夏物衣料の提供を呼びかけたそうだ。今年になって開かれた「三年目にあたって考えよう」というシンポジウムにも彼らは出てきて色々な立場の人たちの意見に耳を傾けていたようだ。水俣の方たちからは「私たちはもやい直しをスタートするのに40年かかった。皆さんはそれに比べたら早い!」といわれたそうだ。「もやい直し」とは水俣病の被害者たちが提唱した造語だ。「もやう」とは船と船をつなぎ合わせることで「ばらばらになってしまった心のきずなをもう一度つなぎあわせる」という意味だ。若者たちはきっと色々なことを学んだに違いない。素晴らしい!

< いわき放射能市民測定室「たらちね」 >

事務局長の鈴木薫さんも3月9日の日比谷野音で被災地からの訴えを話した一人だ。その中で「今後、30年、40年と事故の収束を担うのは、事故になんのかかわりも持たない子どもたちです。・・・多くのおとなたちが、子どもを本気で守るために立ち上がってほしい」と言っている。

今、「たらちね」がやっているのは以前と同じ「食料・土の測定」「ホールボディ・カウンター（HBC）での人体の被曝量の測定」「甲状腺検査」「球美（くみ）の里・子ども保養プロジェクト」の他に、① HBCの定期検診（まずはスタッフと理事などでスタート）② 専門家による講演会（福島では少ないそうだ。年に10～12回行う）③ 情報を英語・仏語でもアップ（独語もまもなく）④「チームママベク 子どもの環境をまもりたい」をサポートし学校の測定もアップ ⑤ 砂浜の測定・日本各地の海開きの情報を集め、砂浜の汚染度を比較している。いわき市の浜は桁違いに線量が高いそうだ。数百～数千ベクレル出る?!!!!



いわき放射能市民測定室たらちねで、鈴木薫事務局長(右から2人目)にさらに多彩になった支援活動を聞いた。

でも確かいわき市の四倉海水浴場は海開きしましたよね？楽しそうな写真を見た覚えが・・・？地元の商工会議所などの圧力がかかったのだろうという話だった・・・。子どもはどこ？どこに位置付けられているのだろう？砂を測るときは表層・二層目・三層目・・・と別々にやるそうだが、始めは表層の線量が高かった。それから三層目が高くなったが今また表層が高い。海から汚染が来ているのだろうと。

< 甲状腺の検査 >

以前からやっている甲状腺の検査で、2013.4.1～12.31で3000人を検査。宣伝はHPだけだと難しい（福島はインターネットの普及率が30%程度）ので折り込みをするそうだ。今年は4500人を目標にしている。子どもは無料、大人は協力費として1000円徴収。福島医大での検査との違いは、医大は技師が検査をしてABCのどの判定かだけを告げ、次の検査は2年後、5年後。説明はしてはいけない。まあ、まあ、検査をするのが技師では説明もできないだろうし、医師がしたとしても答えてはいけないことになっている。「たらちね」では写真と一緒に見ながら説明をする。次は半年から1年後だ。医大で癌と言われてセカンドオピニオンを聞きに来る患者もいるそうだ。お母さんたちは汚染地帯で子育てすることからくるストレスが溜まる。子育て支援といったものがなく、メンタル面で大変な状態になっている。子どもたちは親のストレスに気を遣う。仮設では音の問題も大きい。児童の虐待が二倍に増えているそうだ・・・。

< 避難指示が解除された地域は今・・・(1) 広野町・川内村 >

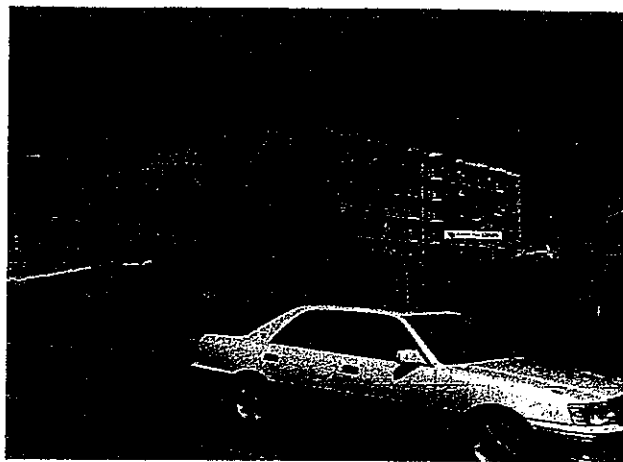
いわき市の北側で檜葉町との境にJヴィレッジのある広野町は2012年4月に早くも避難解除され、1回目に行った二年前はタクシーの運転手さんが「戻れなかった戻れないよ。生活できない。仕事もないし。お年寄りも帰りたいって言ったって、農業ができないからやることない。」と言っていたのだが、今は「賑わっている」と聞き予定を変更して寄ることにした。向かう途中は美しい海岸線が続く。広野町に近い波立海岸近くの家では幼児と犬を連れのお母さんが庭に出ている。道路沿いで測ると0.4 μ Sv/hある。砂浜の線量は高いと聞いたばかりで不安・・・。マスクもしていない。いいお天気なので家々のベランダには布団が干してある。広野に入るとすぐ畑の除染に出会う。

回転する草刈り機が回り、畑の端っこで「普通の」おばさんたちが熊手みたいなものでそれを掻き出している。一生懸命やっている横で私が線量を測るのがなんか気まずい気がした。内輪で「ホントに大丈夫なの？」などと聞きにくいのがわかる気がした。その先の畑の向こうは海岸で、防波堤が津波のために一部しっかり壊れている。機械で田んぼの U 字溝を作っていた。主要道路に出ると工事の車がたくさん通り、コンビニには車がいっぱい止まっている。5000 人の町民の内では戻ってきているのはまだ 2 割の 1000 人程度。代わりに 3000~4000 人がプレハブの宿舎や町民から借り上げたアパートなどに住んで除染や廃炉作業をしているのだそうだ。だから「賑やか」なのだ。辺りは $0.36 \mu\text{Sv/h}$ くらいだった。道路脇にずらっと桜の苗が植えてありメッセージが付けてある。「30 年後のボクへ」という 11 歳の子や、北海道に避難している子からとか。建物に掲げた看板には「東北に春を告げるまち 広野」と書かれている。明るい未来が来るようにと祈る。そのあと、富岡町から川内村を通過して田村市に向かう。川内村はイワナの里であり、山菜の宝庫であり、川に沿った本当に美しい村だが、ほとんど人は見かけなかった。

< (2) 田村市都路地区・大熊町 >

4 月 1 日 (まさに今日!) 避難指示区域だった 20 キロ圏内の都路地区が指示解除され、田村市は全市が解除された。ちょうど 20 キロぎりぎりの小高くなったところに CLOSED と書かれた「結」のレストランがあり、そこに来た板前のおじいさんと話げできた。そこには今度ファミリーマートができるので「結」は下の向こうに見える新しい商業施設に移動して、みんなの作ったものなどを持ってきて売り食堂もやるのだそうだ。その横に目新しい小学校・中学校・幼稚園の建物が見える。震災後に復興支援費で新築。4 月からオープンしたのだそうだ。入学式がまもなく行われるが「小学校に帰ってくるのは 10 人くらいかねえ」と。「除染したんだがまたダメになって今もう一度やってる。台風なんかくればまたダメになるんだよ。金の無駄だね。その金をみんなに分けてくれた方がいいのに」 子どもたちは仮設からマイクロバスで通ってくることになる。「娘たちは戻ってこないよ。うちはその下のところだけど家の中で 0.5 あるから住めないね」と。仮設から板前をしに通ってくるのだそうだ。「イワナ、ヤマメ、キノコ、山菜・・・みんなダメになった。ウナギは 20,000 ベクレルだよ。タラの芽は 8,000 ベクレルだからね。ちょっとなら平気かな (笑)」

今日からはこの先 数キロくらい、大熊町の検問所まで行けるので行ってみることにする。山道を進む。両側の平地は少なく民家は道路沿いに点在している。背の高い木々が両側に生い茂っていていかにも「放射能がいっぱい!」という感じで緊張する。大熊町に入ってしばらく行くと検問所のバリケードがある。その先は帰還困難区域だ。そこでの線量は 1.13 (脇の土では 1.5) だ。バリケードのすぐ手前に簡易スクリーニング所があり、帰還困難区域から出てきた人を調べるが、水が



広野町桜田。真新しいマンションが建つ。除染や廃炉作業の作業員を当て込んでいるのだろうか。交通量も昨年に比較して格段に増える。



399 号線と 288 号線(都路街道)の合流点から、新しくできた商業施設(中央)と古道小学校(左)を望む。手前が 399 号線。

ないので、もし引っ掛かれば第2原発のスクリーニング所まで戻すのだそうだ。線量はそれほどではなく0.36くらいだった。もちろん、帰還を急ぐために必死で除染した結果の値だ。雨や風で両側の山からまた放射能が流れ落ちてくるのではないだろうか？その時にはすぐにまた除染するのだろうか？

< 果樹園のご主人と >

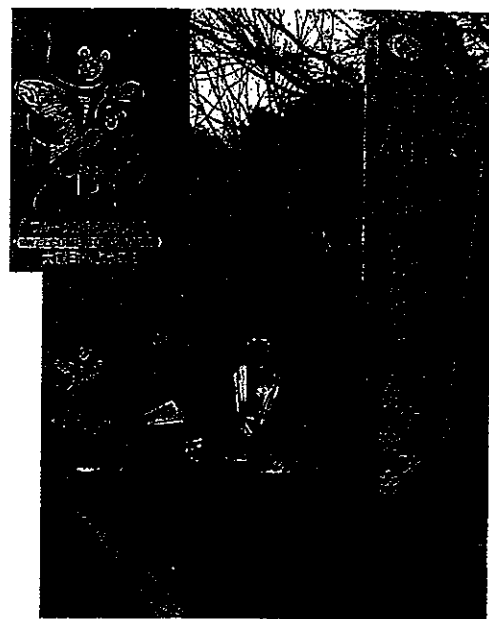
飯坂に泊まり、飯館村までの399号線での測定を開始。まず去年と同じ果樹園のところで測ろうとすると男性が近寄って来た。趣旨を説明すると色々話してくれた。大塚さん。我々と同じ団塊の世代だ。リンゴと桃を植えていて、自分の代から夫婦で40年かけて育ててきているそうだ。去年は0.5あったが今回は0.25程度に下がっている。「ゼオライトを撒けていわれたけど、ここは山全体がゼオライトなんだよね。始めは福島のゼオライトは買わないと行ってたけど、結局は使って、みんな持っていくから自分たちのところは足りずに島根から買ってたんだよ(笑)」「リンゴや桃は調べてもらったけどみんな大丈夫

だった(リンゴ・桃は放射能をあまり吸収しない。柑橘類が吸収しやすい)けど、椎茸やナメコなんかは食べられない。楽しんでたのに。桜やブナを植えて楽しみがあったのに、みんなダメになった。補償はないんだよね・・・」「土の上の方10センチくらいを剥がして取るというけど冗談じゃない。10センチが命なんだ。ここまで土を作るのに何十年かかったと思ってるんだ！」そして知り合いの除染の人たちの話をしてくれた。「手当が上がっていいねというのと、全然！っていうんだ。みんな上の方がピンハネしてしまう。除染のときの旗振りの人なんて1日6000円だってよ」

< 伊達市から飯館村へ >

伊達市に入ると田畑が耕されていて普通に帰ってきているのだなという印象を受ける。霊山町では、線量が去年の0.8から0.6に下がってはいるが、それでも高い！

飯館村に入ると去年より殺伐としている感じがする。碑が崩れていたり丸い石碑に汚れた線が入っていたり・・・。中心部に向かっていく。除染は「テスト除染」を終えた段階だと聞いていたのでまだほんの少しかと思っていたら、フレコンバッグも山積みになりショベルカーもそこここに。「大成・熊谷・東急JV(ジョイントベンチャー)」と書かれた車が往き来する。JVは普通は



田村市都路と大熊町の境。看板に「はつらつ高原都市」とある。後方の親子クマの看板は「フルーツの香るロマンの里 大熊町へようこそ」。0.55 μ



伊達市に入ると手前の399号線沿いのリンゴと桃を栽培している農家さん。気さくで、いろいろと話をしてくれた。0.23 μ



伊達市保原体育館前のモニタリングポスト。たちねで話のあった2台のポスト。唯一、われわれの測定値とそう違わなかった。0.25 μ 。MP:0.20

大きい会社が小さい会社と組むということだが、ここではしっかり大手が儲ける仕組みに。信号近くの工場にはたくさんの車が止まっていて人もいて活況を呈している。ハヤシ製作所。若い社長は「震災からずーっとここで仕事をしてカメラのレンズ部品などを作っている。放射能？しょうがないじゃないですか。ラインもあるし、動かすことはできないんだから。」みんなマスクもしていない・・・ 臼石地区の中心あたりでは飯場があり、除染の機材や車がいっぱい！修理工場もオープンしている。荒れ果てた野原とのちぐはぐ感を禁じ得なかった。



赤石沢遺跡入口の看板前で。測定していると昨年と同じ犬が喜び勇んでやってきた。2.43 μ 。



飯館村役場。周辺には市の様々な施設、活性化センター、老人施設、本の森のいたて、病院が集中して建設されていた。まだ、建設されて間もないものが多かった。

少し上った「赤石沢遺跡入口」付近で車を降りると、なんと、去年遊んだ黒いワンちゃんが駆け寄ってくる！！お腹を上にしてゴロニャン（ゴロワンか...）の態勢。飛びついたり跳ねたりしばらく遊ぶ。縁側に座っていたおじいちゃんも健在！手を振る。住んではいけない地域だけど、チェルノブイリでも26人が残ったように自分で決めて住んでいられるのではないかしら。家の裏の墓地の横にはフレコンバッグが山積み。

村役場に行く。明るく瀟洒な建物がいくつもあつた。役場の周りに老人ホーム、公民館的な建物（全村見守り隊が使っている）、他にも木でできたロジ風なものがある。全体で優しく調和して「まていな」場、空間を作ろうとしていたのだろうと感じられる。映画にも出てきた「ほんの森のいたて」は子どもたちが本と親しみ、本が好きになるようにと若い女性がオープンしたすてきなお店だが、今は復興のための事務に使われているようだ。これから本格的な除染が始まるとのことです。多くの人が活動していた。あの豊かな森や畑、沼などを見ると本当に除染ができるのだろうか不安になるのだが・・・

特別養護老人ホーム「いいたてホーム」を覗くと玄関に「ご面会の方は・・・」と貼ってある。え？まさか誰も住んではいないよね？と思ったが、中には生活感がある。思い切って入って受付で尋ねる。なんと震災からずーっとここで生活が営まれているのだ。元は100名くらいだったが今も約60名の方たちが住んでいる。職員は全員通いだそうだ。若い女性の看護師さんたちがあの直後から覚悟を決めて働きに来ていたのだ。そのようなことを知っている人はどのくらいいるのだろうか？

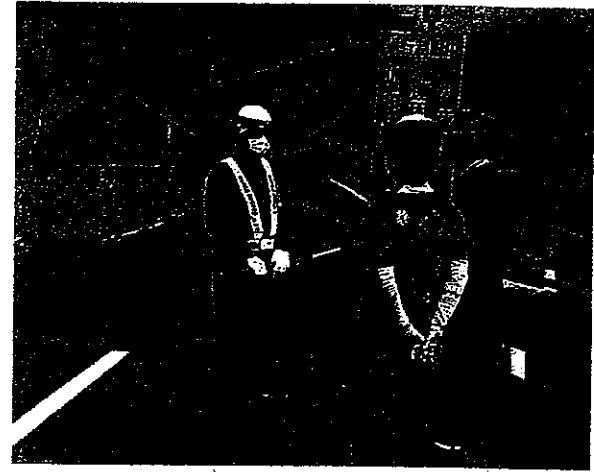


飯館村役場と道路を挟んで特養老人ホームがある。60名の方が生活を続けている。この広場で見守り隊の出陣式に出くわした。多くの人が集まっていた。1.69 μ

< 検問所で >

飯館村から浪江町に入る展望台手前にバリケード（検問所）があり、そこからは進めない。2年前は何も規制がなく浪江から葛尾村に抜けることができた。あの時は浪江町に入ってすぐの赤字木（あこうぎ）では車の中で線量計の針が振り切れてとても怖かった。去年からは通れない。そこで

警備をしている男性と話す。始めは「何者だ?!」という顔で見られたが趣旨を話すと色々話してくれた。「観光バスでやってきて、『わ〜大変ね〜』と大騒ぎをする人たちもいるんですよ。全く他人事で、とても腹が立つよ。1日8時間ここにいるんだけど、大体30($\mu\text{Sv/h}$)だったね(一日で浴びる量が)、前は。今は少し減ったけど。冬は雪だと低くていいんだ。1年に13mSvだよ。年とってるからいいけど、あんまり浴びると孫を抱けなくなるからね・・・」「食事はその(物置のような小さなプレハブの)小屋で取るのですか?」と尋ねると「うん、セシウム弁当だよ」と笑いながら答えてくれた。



展望広場手前の検問所で、仮設住宅から通っている掛りの方から話を聴く。冬は雪が降り下がるが、年13mSvを被ばくすると言う。脇にある小屋での屋食をセシウム弁当と笑う。4.71 μ

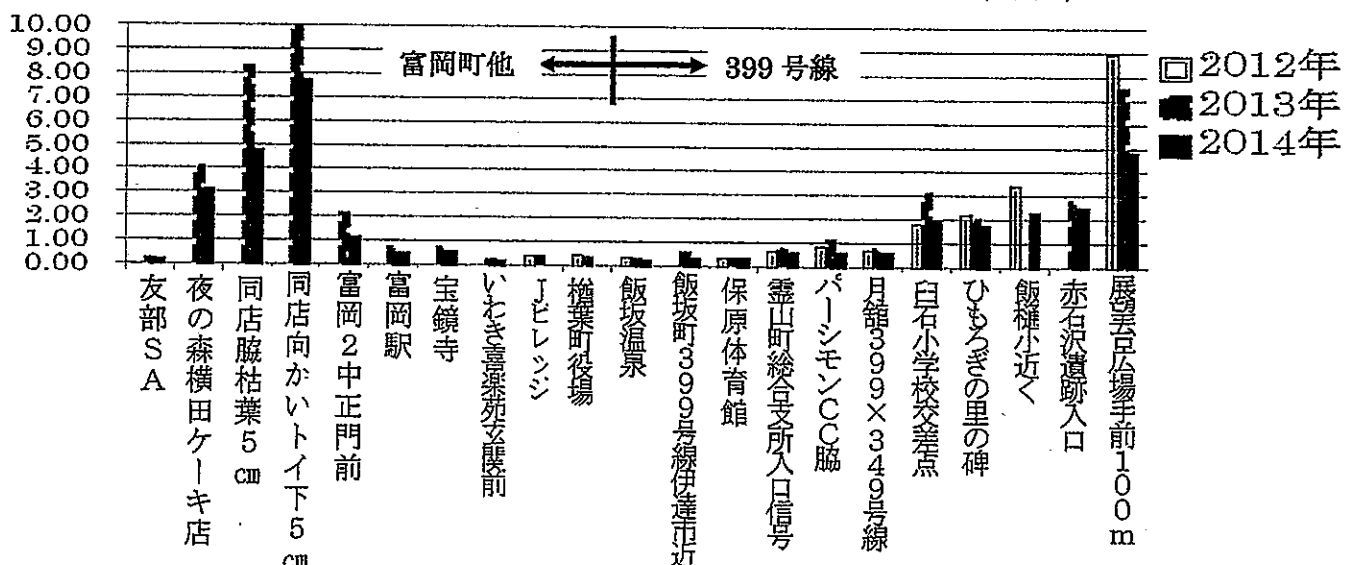
< 未来へ >

東京で福島の方に会うと決まって「東京に来ると、あのことはあたかもなかったかのような空気をを感じる」

「東京の人はもうすっかり忘れていいのか」と言われて心が痛む。首相が「収束宣言」をしたり、「汚染水はブロックされている」「健康の被害は今までもこれからもない」

「東京は福島とは250キロ離れているから安全です」などと平気で言う国だ。今回の旅で、3年という歳月が流れても根本は何も変わっていないという思いを強くした。そして、前の二回の旅と一番違ったのは、ものすごくモヤモヤした気持ちが残ったということかもしれない。「福島どうだった?」と聞かれて、何と答えていいのかわからない物凄くおかしな、チグハグなというか・・・そんな気持ちなのだ。被災地では、いったい誰のことを考え、何を大切にしているのだろうか?どこへ向けて進んでいるのだろうか?多分それは今この国全体が抱えている問題なのだろう。目先のこと、経済のこと、そればかり考えて本当の未来のこと、ビジョンがないからなのではないか。上に立つ人たちが福島を忘れようとしても、そっぽを向いても、忘れさせようとしても、私たちは絶対に忘れないようにしたい。周りが見えていないとすぐに忘れがちな私たちは努力するしかない。こんな事態を止められなかった私たち大人には、子どもたちがこれから生きていく世界に対して出来る限りのことをする責任がある・・・と改めて考えさせられた旅だった。行く先々で色々なことを話してくださった方たちに心から感謝したい。そして諦めずにみんなで智慧を出し合っていきたい。

399号線・富岡町他、放射能年時変化調査結果(2012~2014)単位 $\mu\text{Sv/h}$

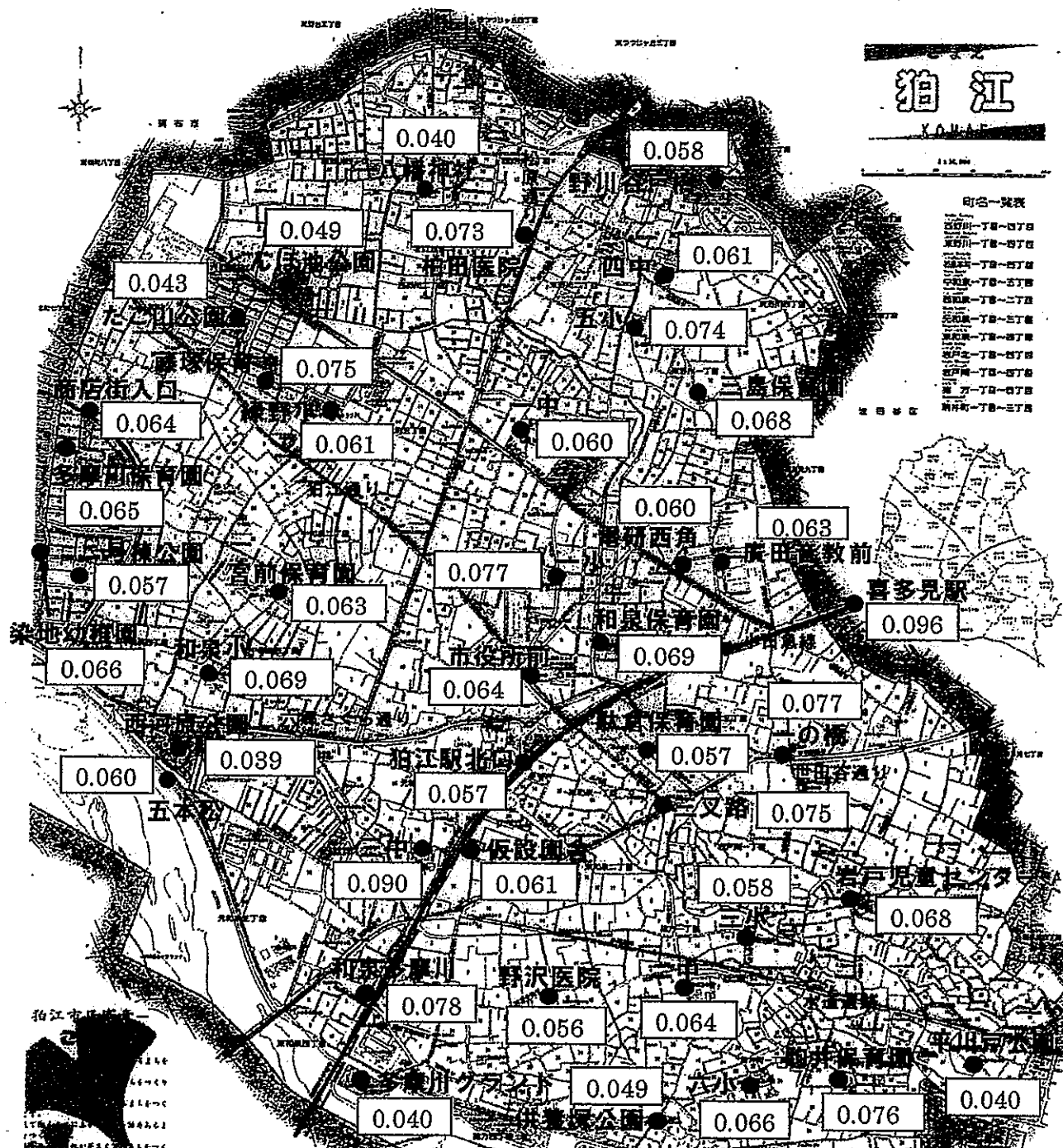


3月の狛江市内放射能測定結果（参考値）

「狛江の放射能を測る会」

なお、このデータは市が測定したものではありません。

測定 2015年 3月 16～19日



2012年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
放射線量平均	—	—	0.072	0.068	0.068	0.067	0.065	0.065	0.065	0.067	0.070	0.069
2013年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
放射線量平均	0.068	0.069	0.068	0.064	0.064	0.064	0.064	0.065	0.062	0.063	0.066	0.068
2014年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
放射線量平均	0.068	0.067	0.062	0.062	0.063	0.061	0.061	0.062	0.061	0.063	0.066	0.065
2015年	1		3		5		7		9		11	
放射線量平均	0.066		0.063									

単位：毎時マイクロシーベルト($\mu\text{Sv/h}$)

福島原発事故前の狛江の自然放射線量：市役所前 2008/1～2010/12 平均 $0.064\mu\text{Sv/h}$ (電研測定値より)

*測定器 堀場製 PA-1000 (ガンマ線線量測定器) *測定日 2015年より 奇数月 15日近傍

*測定位置 地上1m *測定箇所 合計41カ所: 内1カ所(世田谷区)、1カ所(調布市)

ご希望があれば測定します。

連絡先 西尾真人 ☎03-3480-7477

<http://bit.ly/1fztlZh>, <http://bit.ly/16NSR5N>

狛江の放射能を測る会について

私たちは原発に依存しない社会の可能性を探るために、狛江の定点観測など地域での放射能測定をしながら、原発や放射能被害の学習を中心に活動をしています。

定点測定は3年間、毎月実施して市民の皆さんに測定結果を提供してきましたが、一般的な狛江市内の空間放射能は次第に安定してきていることから、今年は奇数月で測定することにしました。

これで再稼働しても良いのですか？

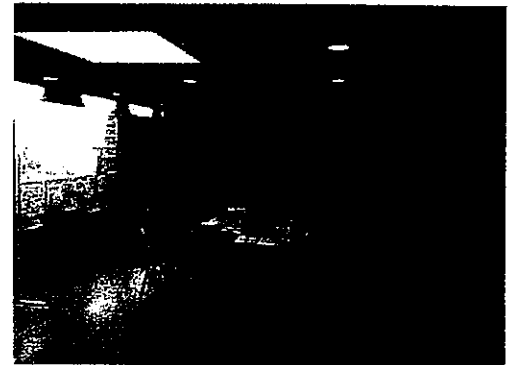
福島第一原発では汚染冷却水の「浄化」は先送りされ、地下水の流入対策もままならないまま陸側遮水壁（凍土壁）も先送りされました。そうした中で、排水路を通して汚染水が海洋流出していることが少なくとも1年前に東電は知っていましたが、公表されたのは今年の2月と未だに隠ぺい体質は続いています（規制委員会も承知していた）。特に、汚染地下水による海洋汚染は徐々にひどくなり、汚染地下水の港湾流出の全ベータ線（ストロンチウム90など）は最高値を更新し続けています。全力を挙げてこうした難問に対処しなくてはならないにもかかわらず、政府・規制庁・電力会社は再稼働に主力が置かれているかのようです。川内原発では3月30日から使用前検査を始め、7月の再稼働を目指しているといわれています。

4年経っても12万人の避難者、60名を超えるといわれる自殺者、いまだに年220名を超える関連死者、人生をだいなしにされ、先の定まらない生活不安を抱えた方々がいる中での再稼働です。世論調査では国民の過半数が再稼働反対です。どの世論調査でも反対は賛成の2倍です。川内原発は火山噴火の予知とその対応が不明確、周辺の市町村では避難計画が確立できておらず、規制委員会も政府も原発の安全を保障していません。これで、なぜ再稼働ができるのでしょうか？

中央公民館のつと（3月4日～8日）での展示にご来場を有難うございました。

市民センター地下ロビーで展示を行ない、狛江市内の測定結果、福島の現地調査結果、そして原発事故の現状と被災者の状況をお知らせしました。92名の来場者があり、一人ひとり熱心に見ていただきました。福島地裁いわき支部で原発事故被災者として提訴されている方々の支援として、公正な裁判を求める署名を76筆いただきました。また、6日の夕方から夜にかけて地下ホールで「おはなし喫茶」を開店させていただき、50名を超える来店者がありました。市民センターの建替えや平和フェスタの共催問題など狛江市で問題になっていることや戦争体験者、核兵器廃絶の活動している方、狛江で教科書問題を扱っている方、そして原発再稼働の問題を指摘した方など多士済々の方々のお話を伺うことができました。あい間には狛江ぞうれっしや合唱団有志による歌声や、ピース・トレインによる「茶色の朝」が朗読され、ご来店いただいた方には不十分ながらもご満足をいただけたものと思います。

来年はより来場・来店しやすい企画をしたいと思います。



毎月以下のことを実施しています。関心のある方は気楽にご参加ください。

- ①市内41カ所（内、調布1、世田谷1）の隔月での継続的な放射能測定（奇数月15日前後）
- ②市民の方の要望に応じた地点での計測（適宜）
- ③原発とその廃止に関連するあらゆる疑問の勉強会

次回：2015年4月28日（火）19時～21時 中央公民館第三会議室

次々回：2015年5月26日（火）19時～21時 中央公民館第二会議室

狛江の放射能を測る会 <http://bit.ly/1fztlZh>

2015/3/31 連絡先 西尾真人 ☎03-3480-7477

狛江・まちづくり市民会議

平成27年5月14日

狛江市長 高橋 都彦 様

団体名 狛江・まちづくり市民会議

代表者名 深井せつ子

市民公益活動事業補助金（チャレンジ補助金）申請書（平成27年度）

事業名称	六郷さくら通りを軸とした快適なまちづくりプロジェクト (第2年度)				
実施時期（予定）	平成27年6月4日～平成28年3月31日				
交付要望額	2	0	0	0	0 円
事業内容 (事業の特色や期待される効果等)	<p>六郷さくら通り(旧・六郷用水路跡)の水・緑・歴史を生かした「快適なまちづくり」をめざす計画づくりの第2年度目の事業。</p> <p>西河原自然公園・古民家園・児童遊園の一体的活用、歩道・旧水路敷を利用した遊歩道整備の構想素案を、沿線住民・地元町会の市民とともに作成する。</p>				

申込団体概要

団体名	狛江・まちづくり市民会議				
代表者名	深井せつ子				
所在地 (事務所等)	住所	(〒)			
	電話		e-Mail		
	FAX		HP		
連絡担当者	氏名	絹山 達也	電話	(自宅) (携帯)	
	住所	(〒)			
	e-Mail				
会員数	8人 (うち市内7人)	会費等	無・有(月額) 1,000円 円		
主な活動地域	狛江市内全域	直近事業年度決算額 (支出総額) 26年度	122,418 円		
主な活動実績	<p>まちづくり条例が規定する「テーマ型まちづくり協議会」や「新しい風」補助金など行政からの支援を受けながら、「歩きたいまち」をテーマに別紙のような活動を進めてきました。</p>				<p>受付印</p> <p>受付</p> <p>27.5.14</p> <p>狛江市市民生活部 地域活性課</p>

狛江・まちづくり市民会議 主な活動実績

2015年5月14日

まちづくり条例が規定する「テーマ型まちづくり協議会」や「新しい風」補助金など、行政からの支援を受けながら、「歩きたいまち」をテーマに次のような活動を進めてきました。

- ◇2004年度；狛江市全域の基本的方向の提案。
- ◇2005年度；上和泉通り・八幡通りの交通量の調査及び緑野小学校前上和泉通りについて具体的な改善の提案。
- ◇2006年度；八幡通りの交通に関する市民意識アンケートを実施。
- ◇2007年度；安全で快適な八幡通りをめざして地域住民と一緒にワークショップを開催。
- ◇2008年度；地域住民と一緒にワークショップで検討しながら、最終提案を作成。
- ◇2009年度；最終提案をもとに市長への提案を提出。いちよう通りについて予備調査実施。
- ◇2010年度；六郷用水を一部復活、活用している世田谷区、大田区、水路敷を活用している旧渋谷川、目黒川界隈を現地踏査。八幡通りについての最終提案に調査費がつき、具体化に向け市と協議。
- ◇2011年度；川・水路を復活・活用している江戸川区・足立区を現地踏査。いちよう通りについて改善試案を作成。それに基づき周辺住民にアンケート調査を実施。
- ◇2012年度；いちよう通り地域住民とワークショップ開催。交通量の削減案や緑化活動等を伝える。が、いちよう通り地区は八幡通り地区のように住民が変化を望まない気持ちが強いため、“断念”という苦渋の決断にいたる。
- ◇2013年度；活動の方向性を会員全員で話し合う。結果、豊かな水に恵まれた狛江の原点に立ち返り「旧・六郷用水路跡」で活動することに決まる。
- ◇2014年度；チャレンジ補助金を受け、「六郷さくら通り」にとりくむ。調査からスタート。多摩川取水口から始めて「西河原公民館」、「あいとぴあセンター」、「西河原自然公園」、「田中橋児童遊園」、「むいから民家園」を主として調べた。その結果報告及び「六郷さくら通り」にとりくむ子とになった理由、アンケートやヒアリング等の報告、さらに今後の整備構想イメージの概要を報告書にまとめた。

2015年5月14日

六郷さくら通りを軸とした快適な、まちづくりプロジェクト（第2年度）

事業計画書

粕江・まちづくり市民会議

私たちの会が計画する今回の事業は、六郷さくら通り（旧六郷用水路跡）の水・緑・歴史を生かし、市民がより快適に散策できる「歩きたいみち・六郷さくら通り」をめざした整備構想を、沿線住民を初めとした市民の皆さんとともに作成していくもので、今年度がその第2年次となります。

昨年度は、チャレンジ補助金を受け、現地調査からスタートしました。多摩川取水口から始めて「西河原公民館」、「あいとぴあセンター」、「西河原自然公園」、「田中橋児童遊園」、「むいから民家園」を主として調べました。その結果やむいから民家園等の利用者を対象におこなったアンケート調査を踏まえ、整備構想イメージを報告書としてまとめました。

第2年次にあたる今年度は、整備構想イメージの具体化に向けた調査・研究を進め、西河原自然公園・古民家園・児童遊園の一体的活用、歩道・旧水路敷を利用した遊歩道整備の2点について、沿線住民・地元町会の皆さんのご意見・ご提言をお聞きしながら、整備構想素案を作成します。

具体的には、以下のようにとりくみます。

① 整備構想イメージの具体化（6月～11月頃）

◇昨年度、作成しました整備構想イメージの具体化を図ります。西河原自然公園・古民家園・児童遊園の一体的活用、歩道・旧水路敷を利用した遊歩道整備の2点について調査・研究を進め、整備構想素案の元となる整備案を作成します。

◇六郷さくら通りのうち、泉竜寺裏から粕江駅南口「三角地」に至る区間の交

通量調査をおこないます。

◇道路管理者・交通管理者など関係機関の調査をおこないます。

◇水路復活・住民管理の先進事例（大田区、日野市）、「道沿いガーデン」などの現地見学・調査をおこないます。

◇造園・植物の専門家を招き、学習会をおこないます。

② 沿線住民、施設利用者のアンケート調査（12月～1月頃）

◇作成した整備案について、沿線住民（約2,000世帯）および西河原自然公園・古民家園・児童遊園の利用者を対象にアンケート調査をおこないます。

③ 沿線の関係3町会との意見交換（1月頃）

◇沿線の中和泉町会、元和泉1丁目町会、元和泉2・3丁目町会に協力依頼し、整備案へのご意見・ご提言をいただく機会をぜひもちたいと思います。

④ 整備構想素案を作成（3月）

◇上記アンケート調査、関係3町会との意見交換の結果を踏まえて、整備構想素案をまとめ、報告書を作成します。

最終第3年次にあたる来年度は、沿線住民・地元町会の皆さんを初めとした市民、道路管理者・交通管理者など関係機関のご意見・ご提言を聞きながら、整備構想素案をさらに煮詰め、まちづくり条例に基づくテーマ型まちづくり提案として市長に提出し得る整備構想案の策定をめざします。

六郷さくら通りを軸とした快適なまちづくりプロジェクト(第2年度)

収支予算書

収入の部

費 目	説 明	金 額
チャレンジ補助金		200,000円
特別会費		31,250円
合計		231,250円

支出の部

費 目	説 明	金 額
会議費	公民館使用料 @300×10月×2回/月	6,000円
	作業スペース使用料 @2,000×5回	10,000円
印刷・複写費	・アンケート用紙作成(A3版両面カラー一刷り) @35×2,500部	87,500円
	・アンケート返信用はがき印刷代 @10×2,500部	25,000円
	・活動報告書複写費(一部カラー) @1,000×40部	40,000円
	・資料コピー代	10,000円
講師代	謝礼 @10,000×2名	20,000円
郵便料	アンケート返信用はがき受取人払い @67×250部	16,750円
交通費	先進事例見学・調査 @1,000×8名×2回	16,000円
合計		231,250円

粕江・まちづくり市民会議 2015 年度収支予算書

収入の部

費 目	説 明	金 額
前年度からの繰越金		7, 848円
通常会費	@1,000×8人	8, 000円
特別会費		31, 250円
合計		47, 098円

支出の部

費 目	説 明	金 額
会議費	作業スペース使用料 @2,000×2回	4, 000円
印刷・複写費	資料コピー代	5, 000円
消耗品		6, 848円
補助事業会計へ		31, 250円
合計		47, 098円

テラコヤ3 (さん)

27年 5月 15日

狛江市長 高橋 都彦 様

団体名 テラコヤ3（さん）

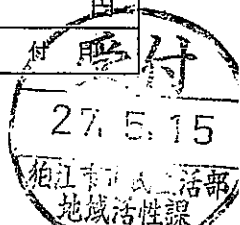
代表者名 中村 祐子

市民公益活動事業補助金（チャレンジ補助金）申請書（平成27年度）

事業名称	狛江キッズイベント 和太鼓体験ワークショップ ドンドコドン					
実施時期（予定）	平成27年9月27日（日）					
交付要望額	2	0	0	0	0	0 円
事業内容 （事業の特色や期待される効果等）	未就学児童を対象とした、親子で和太鼓を実際に叩いてみる体験をするワークショップです。プロの演奏家と狛江の市民和太鼓団体によるミニライブも聴けます。音楽の街狛江で、日本の伝統的な和太鼓を沢山の子ども達に体験して貰う事で、地元への郷土愛の芽生えに繋げて行きたいと考えています。その他、子育て世代の交流の機会となるような、モノづくりワークショップも盛り込みます。					

申込団体概要

団体名	テラコヤ3（さん）					
代表者名	中村 祐子					
所在地 （事務所等）	住所)				
	電話			e-Mail		
	FAX	なし		HP	http://www.facebook.com/Terakoyacafe	
連絡担当者	氏名	中村 祐子		電話	(自宅) (携帯)	
	住所	(〒 -) 同上				
	e-Mail					
会員数	人（うち市内 人）		会費等	無・有（年額・月額） 円		
主な活動地域	狛江市内		直近事業年度決算額 （支出総額） 27年度	66,000 円		
主な活動実績	・主に未就学児童対象の親子イベントを毎月1回開催				受 付	照 付



狛江キッズイベント vol.3

和太鼓体験ワークショップ『ドンドコドン!』 平成27年度 事業計画書

日時：平成27年9月27日（日） 10:00～12:00
場所：和泉小学校 多目的室
内容：(第1部) 手づくりワークショップ（はんこでペタペタ*マイ手ぬぐい作り）
オリジナルはっぴ・お披露目、着衣
(第2部) きんたの会・鳴物師 秀によるミニライブ
とにかく和太鼓を思いっきり叩いてみるワークショップ（親子で参加）
(第3部) 交流会（オリジナルグッズ販売）

参加費：子供1名500円

定員：30組

スタッフ：きんたの会

鳴物師 秀氏

テラコヤ3

趣旨：①和太鼓体験を通して子ども達に音楽体験の場を提供したい

- ・未就学児童の為の和太鼓の演奏を聴く、実際に触れる機会をつくること
- ・とにかく叩いてみる、大きな音を出してみる
- ・自分の力で自分の音を出してみる

②みんなで一緒にがんばることでみんな（地域）と繋がる、一体感の初期体験

『和太鼓 ≡ お祭り ≡ 地元やお祭りへの興味 ⇒ 郷土愛を育てる』

見ている大人も参加して一緒に熱くなる ⇒ 子育ての仲間づくり

このように音楽体験を通して、地域への関心・興味に繋がりたいと思います

- ・オリジナルはっぴは、『みんなと繋がる』シンボルとして制作する
- ・手づくり手ぬぐいは、はっぴと共にちまきとして使用して、その後はワークショップ参加の記念品として持ち帰って貰う。
(制作費用は参加費から捻出)

③今後のワークショップ開催費用捻出対策

- ・「ドンドコドン」オリジナルグッズ（Tシャツ、手ぬぐい、バンダナ等）を製作し、当日販売をする ⇒ 来年度以降の開催費用にする
- ・寄付金を募る ⇒ 会場内に募金箱を設置
- ・告知用チラシを活用して、狛江市内の企業に、広告料を募る

平成27年度 補助申請をする事業の収支予算書

団体名 テラコヤ3

<収入の部>

項目	金額	内訳
狛江市市民公益活動事業補助金	200000円	
参加費	15000円	500円×30組
合計	215000円	

<支出の部>

項目	金額	内訳
講師謝礼	10000 円	5000円×2組
太鼓使用料	5000 円	
はっぴ製作費	140000 円	小40着・大10着
グッズ製作費	30000 円	Tシャツ・手ぬぐい(販売用)
ワークショップ準備費	5000 円	絵具・筆・さらし
備品費	20000 円	鈴など楽器
印刷代	3000 円	チラシ・ポスター制作
予備費	2000 円	
合計	215000 円	

平成26年度 収支決算書

団体名 テラコヤ3

<収入の部>

項目	金額	内訳
参加費	56000 円	500円×10人(小児鍼) 1500円×22人(手型・さらし・虫除け) 800円×2人(座談会1) 200円×4人(座談会2) 1200円×13人(ハーブ)
講師代	10000 円	5000円×2回(おはなし会)
合計	66000 円	

<支出の部>

項目	金額	内訳
消耗品費	20000 円	事務用文具・チラシ/ポスター紙等
材料費	30000 円	アロマオイル・染料・粘土・さらしなど
講師謝礼	10000 円	5000円×2組
印刷代	3000 円	チラシ・ポスター制作
雑費	3000 円	お茶・交通費等
合計	66000 円	

ヘルマンさんの会

平成27年5月14日

狛江市長 高橋 都彦 様

団体名 ヘルマンさんの会

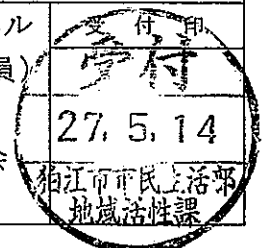
代表者名 飯田吉明

市民公益活動事業補助金（チャレンジ補助金）申請書（平成27年度）

事業名称	<u>ヘルマン・ウォルシュケさんの足跡調査研究とその発表</u>					
実施時期（予定）	<u>平成27年6月1日～平成28年3月31日</u>					
交付要望額	2	0	0	0	0	0 円
事業内容 （事業の特色や期待される効果等）	<p><u>第一次世界大戦時に俘虜として日本に来たドイツ人ヘルマン・ウォルシュケさんは初めて日本にドイツ風ハム・ソーセージの製法を伝え、第二次世界大戦後は狛江を拠点として全国に高級ハム・ソーセージを送り出した。</u></p> <p><u>ヘルマンさんの波乱に富んだ生涯に関する情報を集め、狛江から発信する。本年はヘルマンさんの故郷ドイツのゼンフテンベルク市との交流にも努める。</u></p>					

申込団体概要

団体名	ヘルマンさんの会					
代表者名	飯田吉明					
所在地 （事務所等）	住所	(〒)				
	電話			e-Mail		
	FAX			HP		
連絡担当者	氏名	飯田吉明			電話	(自宅) (携帯)
	住所	(〒)				
	e-Mail	:				
会員数	30人 (うち市内28人)	会費等	無・有(年額・月額)			1,000円
主な活動地域	狛江市内		直近事業年度決算額 (支出総額)26年度	187,768円		
主な活動実績	<p>1) 取材活動：広島市（公文書館、似島）、ゼンフテンベルク市、軽井沢町（ヘルマン・ウォルシュケ食品元社員）</p> <p>2) 似島独逸俘虜技術工芸展目録の研究</p> <p>3) 研究発表会（昨年3回）、ギャラリートーク、展示会</p> <p>4) 調査研究報告書の作成と市内公共施設等への配布</p>					



平成27年度事業計画書

ヘルマンさんの会

事業の目的

ドイツ人ヘルマン・ウォルシュケさんの苦難の前半生と第二次世界大戦後狛江に住居を構え工場を建設して全国に高級ハム・ソーセージを送り出した栄光の後半生をたどり、その生涯を狛江市民に知っていただくこと。また狛江をヘルマンさんの情報発信基地にすること。

あわせてヘルマンさん生誕の地、ドイツのゼンフトベルク市と狛江市の交流を促進するよう努力する。

事業の詳細と実施予定

1. 取材活動

1) 狛江市内の関係者・東京都内の食肉加工業関係組織への取材。

5月～12月

2) ヘルマンさん生誕の地、ドイツ・ゼンフトベルク市の情報収集。

3) ヘルマンさんが俘虜生活ののち勤務した明治屋取材。

6～7月

4) ヘルマン・ウォルシュケ食品に勤務していた方にインタビュー。

5) 前橋市子持山学園の取材。

10～11月

2. 年報の発行・配布

A4判 32ページの小冊子。平成28年3月発行予定。

市内公共施設に配布する。

3. その他の発表活動

1) 食肉加工関係者等の講演会

2) 調査研究発表会

8月、10月、平成28年1月、3月

平成27年度事業収支予算書

ヘルマンさんの会

(単位 円)

<収入の部>

科目(摘要)	細目	収入	残金
会費	正会員30名分	30,000	
寄付金		20,000	
狛江市より補助金		200,000	
合計		250,000	

<支出の部>

科目(摘要)	細目	支出	残金
調査研究年報	A4判32ページ 200部	160,000	
取材雑費	子持山学園、明治屋等取材	20,000	
会場使用料	調査研究会(4回)、講演会(2回)	10,000	
調査研究会用資料作成代	インク代、コピー代、用紙代	10,000	
交通費	東京から前橋までの交通費を含む	20,000	
通信費	例会通知、資料発送代	10,000	
雑費	講師料	20,000	
合計		250,000	

平成27年度予算(案)

平成27年4月1日～平成28年3月31日

ハム・ソーセージでドイツと日本を結んだー
ヘルマン・ウォルシュケさんの足跡をたどる会
(単位 円)

<収入の部>

科目(摘要)	細目	収入	残金
前年度より繰越		15,334	
会費	正会員30名分	30,000	
寄付金		20,000	
年報売上金		5,000	
狛江市より補助金		200,000	
合計		270,334	

<支出の部>

科目(摘要)	細目	支出	残金
調査研究年報	A4判32ページ 300部	160,000	
取材雑費	前橋市子持山学園、明治屋他	20,000	
会場使用料	調査研究会4回、講演会2回	10,000	
調査研究会用資料作成代	インク代、コピー代	10,000	
交通通信費	東京から前橋までの交通費を含む	20,000	
雑費	食肉加工関係専門講師等の公演代	20,000	
予備費		30,334	
合計		270,334	

